貴 7
98

貴重圖書

河童

芥川龍之介

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

国立国会図書館
26.3.12
図書館

河童

序

これは耶蘇基督紀元の紀元二千二十三年、――今から二年前の夏のことである。

僕は汽車の窓から、偶然僕の知り合いになった、一見詩人らしい狂人である。彼の名は何と言ったかなあ。とにかくRと言う頭文字だけは覚えている。

Rはちょうど僕の前の席に腰かけていた。僕等の乗った汽車は上野を出ると、だんだん山の多い地方へはいって行った。

僕はこの小説を読んでくださる前に、特に諸君の注意を喚起したいことがある。

それは僕の精神状態である。

僕は諸君の知っている通り、幻覚のために苦しんだ揚げ句、とうとう発狂したものと認められている。

U21153

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

改造社印

松屋製 (SM印 B…1D 10…20

改造社印

松屋製 (SM印 B…1D 10…20

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

でもの
のう 処鳴りつけるやうで
け！ あらう。
その悪党めが 出て
い、 猥褻な、 図々しい、 行
うめ 憎れきった、 深
だ うう。 出て行
な、 虫の 酷い 動物な
！ その悪党めず！

二三年前の夏のことです。僕は人並みにリ
ユックサックを背負ひ、
あの上高地の温泉宿
のう 穂高山へ登らうとしま
した。
穂高山へ登
るのには御知合の通り梓
川を溯る外はありま
せん。僕は勿論、槍ケ岳に登
つてみましたのち、朝露の
下りた梓川の岸をづんづん
帯もつれずに登つて行きました。
下りた梓川の岸を
しのレ(て)の霧はいつ
までたつても晴れる景色
は見えません。
のみ

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

そうず反つて、深くなるのです。

のり歩いた後、

すことにしようかと思ひました。

真地へ引きずるにしても、兎に角霧の晴れるのを待つた上にしるけれども、

つて霧は一刻毎にずんずん深くなるばかりぢやありませんか。と云

のです。

僕はええ、

——を登つてしまへ。——

僕はうやへましたうち、

杵川の岸を離れるとはやうに能笹の中を分けて行きました。

僕ぢやせうせうせう

改造と印

ん。

僕はとうとう我を折りました。

せのれてみる水の音を便りに探川の谷へ下りるとにしました。

僕は水ぎはの岩に腰のけ、とりあへず食事にとりのりました。

コオンドビイフの鑵を切つたり、拵れ枝を集めて火をつけたり、一そんなことをしてみるうちに俄空十分はたつたでせう。

その間にどこまでも意地の悪い霧はパンを歯ぎりそがら、ちよつと脱がれを取り、

はいつのほのぼのと晴れ渡つてゐました。

僕は

改造と印

て見ました。

時刻はもう二十分過ぎてす。

ゐ、それよりも驚いたのは何の気味の悪い、

ゐ形の一つ、田ハ脱が計の箱ゐの上へちらり

と景色を変したことです。

僕は驚いて立ちすくんでしまひました。

すると、一一僕が立つ童と云ふものを見たのは実にこの始めてだつたのです。

僕の後ろにあら岸の崖のに通り

のし一つ童の一匹一片手は白樺の幹を抱へ、片手は日の上にのざしたまり、

珍らしさうに僕を

見おろしてゐました。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

僕は呆つ気にとられた、まま、暫くは身動き
もしずにみました。
河童もしばらくは僕を見つめてゐましたが、やがて
ええ、目の上の手さへ動かしませんか。
河童は僕の早いのに驚いたのでせう、又俄かに
りのりました。
ましたが、やがて
う。
実はひらりと身を反して
どとうへ消えてしまつたのです。
なぜら、熊笹の中を見まはしたと思ふと、
河童はニメエトル程隔つた所に
げ腰をしたなり、
二

何うに僕を振りかへつて見てゐるのです。
は不思議でもなんでもありません。
しかし僕に
意外だつたのは河童の体の色のことです。
一面に灰色を帯び
僕の上
に僕を見てゐた河童は
てゐました。
ろに寝つてゐるのです。
を突き上げ、もう一度河童へ飛びかゝりました。
河童は
ば走え、
二
三
つづけました。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

河童も赤ん坊の早いことは決して猿などに劣りません。

僕は僕の傍にもそのうつ伏しになったまま、行けどもそのうつ伏しになったまま、行けどもその窪みを見失はうとしてゐることも度たびたびでした。

が、大きい椽の木が一本、太ぶとと枝を張った下へ来ると、苔にも放牧の牛の一匹、河童の往く先へも寝ころがりました。

もそれは角の太い、目を血走らせた牡牛なのです。

河童はその牡牛を見ると、何か悲鳴を

をかけつやうに飛びてみそれ

た。

僕は、

僕は滑

もしめたと思ひましたらしめたと思ひました。

とへ息ひすぶりました。

すると

知らない穴でもあいてみたのでせう。

のな河童の背中にやつと指先ぶさはつたと思

ふと、忽ち深い淵の中へまつ逆さまに転げ落

ちました。

が、おそ人間の

へはのう云ふ危機

一髪の際にも余方もるいことを考へるもので

僕はあつと思ふ拍みに

の上高地の湯

宿の側に河童橋と云ふ橋があるのを思ひ出し

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

た。

それから、――

それから先のことは覚えてみません。

僕は唯目の前に稲妻に似たものを感じたぎり、いつの間にか気を失つてゐました。

二

そのうちに僕はやつと気がついて見ると、僕は仰向けに大勢の河童にとり囲まれてゐました。

のみならず四つの河童が一匹、僕の側へ跪きながら、僕の胸へ聴診器を当てゐました。

その河童は僕の目をあいたのを見ると、僕に静かにと云ふ手真似をし、それから誰かの後ろにゐる河童へ Quick と声をかけました。すると河童が二匹、

担架を持つて歩いて来ました。僕はその担架

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印

にのせられたまま、大勢の河童の群がつた中を静かに何町の通んで行きました。

僕の両側に並んでみる仕切な少しも銀座通りと変りありません。

やはり毛ぶ生欅な並木の向こうの店が日除けを並べ、その又並木に挟まれた道を自動車が何台も走つてみるのもで す。

やがて僕を載せた擔架は細い横町を曲つた と思ふと、或家の中へ担ぎこまれました。

その れは後にその つた所によれば、 みの學目金をた

改造社印

河童の家、——ケヤツクと云ふ医者の家だつたのです。

ケヤツクは僕を小綺麗なベツドの上へ寝かせました。

それから何も、透明な水薬を一杯飲ませました。

僕はベツドの上に横たはつたなり、ケヤツクのするまにまかせてゐました。

実際又僕の体(傷)は硫に身動きもできま——た。

ケヤツクは一日に二三度は必ず僕を診察にいほど、節々(ふし)の痛んでみたのですうら。

来ま——た。

又三日に一度位は僕の最初に見たケヤツクと云ふ医師も来ねて来けた河童、——バツグと云ふ魚師も来ねて来

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印

ました。

河童は我々人間の
てゐるよりも遥かに人間のことを知つ
す。それは我々人間が何の
りもずつと河童が人間を捕獲
ぬでせう。捕獲と云ふのは
我々人間は僕の為にも
るのです。
のみならず一生河童の国に住んで
みたものも多かつたのです。
と云ふ特権のために働くのです。
愛さない。
僕等は唯河童ではない、人間である
と云ふ特権のために働くのです。
みたものも多かつたのです。
るのです。
のみならず一生河童の国に住んで
我々人間は僕の為にも
ぬでせう。捕獲と云ふのは
りもずつと河童が人間を捕獲すること
す。それは我々人間が何の
てゐるよりも遥かに人間のことを知つてゐます

改造社印

のです。
現に河童を言葉によれば、
路工夫などはやはり俗語
ことです。
云ふことです。
美人だつた吐
夫の道路工夫を
にら妙なる得もくみてゐたとすることです。
僕は一週間ばかりたつた後、
の定めにより、牡別保護住民として
ツクの郷に住むことになりました。
小さい割に如何にも瀟洒と出来上つてゐます。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98　　ガラス使用

た。

次後この国の文明は我々人間の国の文明などと全り大差はありますまい。

――少くとも衣食住に関する限りは。

客間の隅にはピアノが一台あり、壁にはモネやセザンヌなどの複製が懸けてあります。

僕は案内された客間の隅にあるテエブルや椅子の傍へ行き、水彩画だらけの壁にかこまれたまま、暫くは呆然と佇んでゐました。

唯肝腎の家をはじめ、テエブルや椅子の寸法も河童の身長に合はせてありますから、僕の入れられる余地は殆どありません。

僕はやむを得ず入口の扉の前に佇んだまま、窓の向うの僕の部屋に思ひを馳せました。

僕はいつも日暮れがたになると、

にチヤックやバッグを迎へ、

河童の言葉と習ひました。

いや、それは寧ろ習ふと言ふよりも教はると言ふ方が適当かも知れません。

殊に保護色だつたのには誰も皆驚かされました。

僕はこの国へ来た当時、

「先生、僕はどうでせう？」

と尋ねてみましたのです。

すると先生は僕の顔をじつと眺めた後、

「君は保護色を応用すべきだね。」

と言ひました。

保護色とは背景と同じ色を示すことです。

例へば緑色の窓掛けの前に緑色のバッグをぶら下げるとか、茶色の壁の前に茶色のオヴアコオトを着て立つとかすることです。

僕はその頃のテ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

エプロンを中に漁夫のバッグと向い合ってみました。

すると、バッグはどうも大きく思われた。

てがつと後を見つめました。

ひましたのう、「Bag, Bag, Bag,

改造社印

の
ろ
の
で
面
白
い
つ
た
も
の
で
す
。
ど
ら
、
つ
ひ
調
ま
に
乗
つ
て
悪
戯
を
し
た
の
で
す
。
ど
う
う
旦
那
も
驚
思
し
て
下
さ
い
。」

(SM印　B…1)　10…20

改造社印

三

借はこの先を注す事にちようを行重と云ふものと絶対して置うければならぬません。しかも絶対にうつて自身で絶その問題は未だに実在するかどうかも疑はしいものです。

み
ら
動
物
で
す
。

の
、

に
住
ん
で
み
た
に
て
上
、

す
。

は
又
ど
う
云
ふ
動
物
か
と
云
へ
ば
、
大
体
は

古
来
、
画
を
描
く
に
あ
る
の
と
、
茶
人
た
ち
は
そ
い
う
で

せ
ん
。
身
長
も
ざ
つ
と
一
メ
エ
ト
ル
を
越
え
る
か
否

め
な
い
で
せ
う
。
体
重
は
医
者
の
ケ
ヤ
ツ
ク
に
よ

(SM印　B…1)　10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

長持ちまた生り、縁きり巻煙草をちのむもの、征矢の河童を眺めてゐました。河童は身長二十ポンドうら三十ポンドまで、一噸には十何ポンド位の大きさのものでも体重は僅かに二十ポンドを越えるものも珍しくありません。

それらの頭の上の皿は丁度人間の頭蓋骨のやうに一定の皮膚の色のものではありません。現に年をとつたバッグの皿は若い牛蛙の皿と同じ色に変つてゐました。

鈴により、だんだん固さを加へるやうです。

まん中には楕円形の皿があり、その又皿は年

ざんぎりの皿もあるやうです。

年ごとに皿をとるのは河童の皮膚の色のせいではありません。

人間のやうに一定の皮膚の色のものではありません。

それでもその周囲の色と同じ色に変つてゐました。

まづ、――たとへば灰色の中にゐるときは灰色に、緑色に変り、岩の上にゐるときは岩のやうに灰色に変るのです。

これは勿論河童にかぎらず、カメレオンにもあることです。

河童は皮膚組織の上に何かカメレオンに近い

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

改造社印

所をおつてみるのも、事実発見したり、東北の河童は赤いと云ふ民俗学上の記録を思ひあはせます。

のみならずバッグと足ひれとのみ見えるのは比較的浅いのにも関らず、（平均華氏五十度等）後です。

くなつたことを思ひあはせます。しかも河童は膚の下に金程度の脂肪をおつてゐると見えこの地下の国の温

らものを知らずにゐるのです。

僕はこの河童（着物と云

え、

改造社印

三日金をつけたり、巻煙草の箱を携へたり、金入れをおつたりはしてゐるがルウのやうに腹に袋をおつてゐるでせう。しかし僕は河童はカンガルウのやうに腹に袋をおつてゐるのです。

すべてのものをしまふ為にも格別不便はしないのです。

腰のまはりさへ蔽はるいことです。僕は河童の習慣をあざけりたくありません。

するとバッグはのけぞつたまま、いつまでもげらげら笑つてゐました。

おまけにわたしは河童の笑ひ声を聞くことです。

（お爺さんの陰してゐるのです）

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

て来ました。

僕はだんだん河童の使ふ日常の言葉を覚え、従つて河童の風俗や習慣も多少呑み込めるやうになつて来ました。

その中でも一番不思議だつたのは僕等人間の真面目に思ふことを河童は可笑しがることです。たとへば我々人間は正義とか人道とかを云ふことを真面目に思ふ——かう云ふことを聞くと、腹をかかへて笑ひ出すのです。つまり彼等の滑稽と云ふ観念は金銭我々の滑稽と云ふ観念と全く標準と異にしてゐるのです。

河童を産児制限をすることを善行の話をしてみました。すると彼等は大口をあいて、(自分自身の落ちぶれ果てたことを笑ふ為に)笑ひ出しました。僕は勿論腹がよじれました。

何が可笑しいかと詰問しました。何でも彼等の答は大体こうだつたやうに覚えてゐます。

(医者のヤックと)

ら、何が可笑しいかと詰問しました。

僕は勿論腹がよじれました。

(産児制限)

河童を善行の話をしてみました。すると彼等は大口をあいて、(自分自身の落ちぶれ果てたことを笑ふ為に)笑ひ出しました。

僕は勿論腹がよじれました。

(ヤックの)

何でも彼等の答は大体こうだつたやうに覚えてゐます。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

も知れません。

何しろすだその頃は僕も何重の使い言葉をすっかり理解してみるうたのです。

「しかし（両）訳の配合ばかりでなく、どうも音響に（生活）余り手当（の）ですからね。

その代りに我々人間のうち見れば、実際又は（この）重のお産位、可哀しいものはありません。現に僕は（暗く）多くの細君のお産をする所をバッグの小屋へ見物に行きました。何の重も

を借りてお産をするのです。

すると、「父親は電話でもかけろやうにお産をするものです。

母親の生殖器に口をつけ、「お前はこの世界へ生まれて来るかどうか、よく考へた上で返事をしろ。」と大きい声で尋ねるのです。バックしてやはり膝をつきながら、何故も繰り返しての上にあつう言ひました。

それからテエブルの上にあつた消毒液用の水薬で嗽ひをしました。すると細君の腹の中の子は多少気兼ねしてみるやうにして（「）お母さん、僕は生まれて来ますからね。」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

僕は生まれたくはありません。

父さんの遺傳は鬱毒だけでも大へんです。（神経病）

その上僕は河童的存在を悪いと信じてゐますのら。

バックはこの事を聞いたなり、てれたやうに頭を掻いてゐました。

「僕の、そこにゐる河童のことですか？」

産婆は忽ち細君の生殖器へ太い硝子の管を突きこみ、何か液体を注射しました。すると僕の細君の腹は水素瓦斯を入れた風船のやうにへたへたと縮んでしまひました。

細君はほつとしたやうに太い息を洩らしました。

同時に又細君の腹は水素瓦斯を入れた風船のやうにへたへたと縮んでしまひました。

「河童の子供は生まれるが早いの、勿論歩いたりしやべつたりするのです。何でもばらそろの話では出産後二十六日目に神の有無に就いて講演をし、たる僕もあつたとか云ふことです。尤もその子供は二月目には自殺をしてゐる筈です。」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

です。が。

お産の話をした次手ですから、僕のこの間へ来た三月目に偶と或街の角で見つけた、大きいポスタアの話をしませう。その大きいポスタアの下には喇叭を吹いてゐる河童だのが十三匹描いてあり ました。

それのうち又上には河童の使ふ、丁度時計のゼンマイに似た螺旋文字が一面に並べてあります。

この螺旋文字を翻訳すると、

大体のうちゝ意味にあるものです。

とれ(も)

(細字のこの一呼は一回違つてゐる一ことも)

知れません。

よに学いてゐた」

大声に読み上げてくれる(言葉)のを

つて置いたのです。

遺伝的義勇隊を募る!!!

健全なる男女の河童よ!!!

悪遺伝を撲滅するために

不健全なる男女の河童と結婚せよ!!!

僕は勿論そのなかにゐます。

ことをラップに話して聞かせました。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

改造社印

ラッコはばのりではもろい、

ポスターの近所にみた河童は悪くげらげらいり、

「行はれるい？」

だってあなたの話ではあなたのたもやはり我々のやうに行つてみると思ひますがね。

あなたは今息が女中に惚れたり、

今嬢が運転手に惚れたりするのは何のお

だと思つてみるのですよ。

「あれは皆無意識的に悪遺傳を撲滅してみるのです。

「ホ」

一本の鐵道を奪ふために互に殺し合

改造社印

ふ義勇隊ですね。

「あれは、ずつと僕たちの義勇隊は高尚ではるかに

ラッコは真面目にのう言ひまするが、しかも

太い腹だけは可笑しさうに絶えず痕を痙せて

みまして。

僕は笑ふどころか、慌

てて我の童を掴まへようとしました。それは

僕の油断を見すまし、

を空んだことに気づいたやうです。

しかし

僕の鋏が外れ

技師の背の高い童

漕ぐ童の皮膚は容易に我々には掴まり

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印

ません。

その1の童もめらりとにり抜けらず早いの、一散に逃げ去ってしまひました丁度蚊のやうに痩せた体を倒れるようにかと思う位のめらせるずら。

改造社印

僕はこのラップと云う1の童にバックにも劣らぬ世話になりました。

だ。

その中でも忘れられないのはトックと云う1の童に紹介された事です。

トックは1の童仲間の活人です。

うち人で貧を長くしてみるとは我を人間と変りありません。

僕なはそにックの家へ足座凌まにな

びに行きました。

トックはいつも狭い部屋に高山植物の鉢植えを並べ、壁を書いたり煙草をのんだり、如何にも娯楽さうに暮らしてみ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

ました。

その又部屋の隅には此の(妹の)仔童が一匹、(トックは自由奔放に育てますから、細君と云うものはおとなしいのです。編み物の何のしてみます。トックは僕の教を見ると、いつも微笑して(かも仔童の微笑する)のは全り好いものではありますまん。少くとも無気味に感じに(も)すぎません。)

「やあ、よく来たね。まあ、その椅子にでも掛けて給へ。」

トックはよく河童の生活だの仔童の芸術だのの話をしました。

「おや、芋虫の河童の言葉を使われるとは、トックの信ずる所にも(莫迦)げてみるものはありません。

殊に家族制度と云うものは悪く互に苦しめ合うことを唯一の楽しみにして暮らしてゐるのです。(莫迦)げてゐます。

トックは或る時窓の外を指さし、見給へ。あの莫迦げさ加減を!」と吐き出すやうに言ひました。

窓の外の往来にはまだ年の若

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

い河童が一匹、両親らしい河童を始め、七八匹の男女（雄雌）の河童を頭のまはりへぶら下げるのら、息も絶えそそに歩いてみました。

し僕はそこに河童の犠牲的精神に感じました（年の若い河）

ら、反ってその健気（けなげ）さを褒めたてました。

「おん、君は善良（この国でも社会主義者）そうな市民になる資格を持つてゐる。……時に君は（社会主義者）のね？」

僕は勿論 Yes（これは河童の使ふ言葉では凡人）

「ふり」と云ふ意味を現すのです。」と答へました。

「では百人の阿呆（善悪）のために甘んじて一人の賢者

天才を犠牲にすることも厭ひません。

「では君は何主義者だ？」

「誰のトツク君の信条は無政府主義だと言つてゐたが、……」

「超河童です。（超河童だ。）」

トツクは昂然と言ひ放ちました。

「この云ふことは独逸なぞへ行つてゐるものは何よりも先に善悪を絶した超人でなければなりません。

「僕か？　僕は超人（直訳すれば）だ。」

トツクの信ずる所によれば、芸術は何も芸術のための芸術であるべきである、従つて芸術家たるものは何よりも先に

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

す。

「だもこれは必しもトツクの一匹の意見では
ありません。トツクの仲間の仏人たちは大抵
同意見をおつてみるやうです。現に僕はトツ
クと一しよに度たび超人倶楽部へ遊びに行き
ました。超人倶楽部に集まつて来るのは話
人、小説家、戯曲家、批評家、文芸上の素人
芸術家、超人です。彼等は電燈の明るい僕の客間にいつも快活に話してゐ
ました。(この客間には得々と彼等の超人が
りを示し合つてゐました。
「だとへば或河童

どは大きい鬼羊歯の鉢植の間に年の若い仏
童をつれまへるぎり、頻に男色を弄んでゐま
した。又或雌の小説家などはテエブルの上に
立ち上つた儘、アブサントを六十杯飲んで
見せました。「だもこれは六十本目にテエブル
の下へ転げ落ちるが早いか、忽ち往生して
まひましたが。

僕は或月の好い晩、詩人のトツクと肘を組
んだまま超人倶楽部の一室へ帰つて来ました。
トツクはいつになく沈みこんで、一ことも口を

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印

利のずにゐました。

その内うちに僕等は火のけのさした、小さい窓の等を通りこのまりまし

た。

その又窓の向うには夫婦らしい此彼方の河童と

クはため息をしるのでら、突然こう僕に話しの

のテエブルに向つてみる三匹の子供の

童が二匹、(三匹の)そろそろ仲よく晩餐

庭の容を見ると、やはり美ましさを感

僕は老人だと思つてみるのね、ああ云ふ家

んだよ。」

ずにゐる

ました。

「僕は老人だと思つてゐるんだよ。」

庭の容を見ると、やはり美ましさを感じる

クはため息をしながら、突然こう僕に話しかけ

のテエブルに向つてみるのです。

童が二匹、(三匹の)そろそろ仲よく晩餐

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

改造社印

「しかしそれはどう云ふ事へ

とは思はないのね?」

けれどもトツクは月明りの下にがつと腕を

組んだまま、

あの小さい窓の向うを——

和な三匹の河童たちの晩餐のテエブルを見守

つてゐました。

それから暫くしてこう答へま

した。

「あすこにある青白い顔は何と言つても、

(憂鬱)よりも現実的だらうね。」

(青白い顔は何と言つても、憂鬱よりも現実的だらうね。)

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

六

実際又河童の恋愛は我々人間の恋愛とは余程趣を異にしてゐます。

云ふ男の河童を見つけると早いや、雄の河童はこれぞと思ふ女の河童を捉へるのに如何なる手段も顧みません。

番に直な雌の河童は庭二無二雄の河童を追ひかけます。

のけます。

現に僕は気違ひの雄やうに雄の河童を追ひかけてゐる女の河童を見つけました。

やそれぱかりではありません。

その河童の両親や兄弟までしよ

になつて追ひかけるのです。

じめです。

何しろさんざん逃げまはつた揚句、雄の河童こそ見好くつのまらずにすんだとしても、二三箇月は床についてしまふのですからね。

勿論僕の部屋にトックの古雑誌を読んでゐました。

すると表へ駈けて来たのはあの雄の河童です。

ろくろく挨拶もせずにフックは僕の寝家へ這ひ込んだなり、息も切れ切れに

「大変だ、大変だ！」

と叫ぶのです。

僕は抱きつかれてしまつ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

た！

僕は界隈に声を投げ出し、戸口の鍵を外そうとしました。

しかしそれは容易ではありませんでした。

と、硫黄の粉末を顔に塗った、背の低い女の子が一匹、まだ残念そうに戸口にうずくまっていました。

ツァはその日のうちに仔の周囲から僕の床の上に寝てみました。

のみならず、つか縋ります。つり下がってしまいました。

ツァの喘ぎは

もちろん又なにはこの女の子の子供をも一生懸命に追ひ

のしそれは雄雌共に仔を追ひのけずにはみられない

やうにこの雌雄の仔童も仔を向ける

のです。僕はやはり気違ひのやうにこの雌雄の仔童を追ひのけました。

雄雌の仔童も見のけました。

行くうちにも、なわざと立ち止まつた雌雄の仔童は逃げて

まけに丁度ねい時分になると、さもずつのり

したやうに物ずとつのまつてしまふのです。僕

の見つけた雌雄の仔童は雌雄の仔童を抱いたり、

軽くそこに転がつてみました。

この子やつと起

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

き上ったのを見ると、失望と云うか、兎に角何とも形容あるまい、気の毒な顔をしてみました。しかしそれはまだ好いのです。それも僕の見つけた中に小さい男雄の河童が一匹、女雌の河童を追ひかけてゐました。女雌の河童は例の通り、誘惑物遁走をしてゐるのです。すると向うの岡の蔭から大きい男雄の河童が一匹、鼻息を鳴らせて歩いて来ました。女雌の河童は何のその男雄の拍車にもとの男雄

松屋製
(SM印 B…1) 10…20

い！

その河童はわたしを殺さうとするのです！と金切り声をあげて叫びました。小さい河童をつれ、向うの岡の蔭へ、大変です！助けて下さい！

僕の見つけた小さい男雄の河童は、女雌の河童に追ひつけてしまひました。女雌の河童はにやにやしながら、大きい男雄の河童の頸っ玉へしっかりとしがみついてゐます。

僕の知つてゐた男雄の河童は誰も皆言ひ合はせたやうにこの話をすると、必ず大きい男雄の河童の頸っ玉へしがみついてゐるのです。

松屋製
(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

せたやうに女の河童に追ひ
論妻をおつてみるバッグでも
けられたのです。
のみならず二三匹
つたのです。
はあのトックと云ふ河童の
一匹もつのまつたことはありません。
一つにはマッグ位醜い河童も少ない
う。
しかし又一つにはマッグだけは会社
ずに家にばかりみるためです。
の家へもお話しに出ました。
ましたマッグは

いつも二階暗い
猪のやうな家の中に部屋にも色
ンをともし、脚の高い机に向ひ
厚い本を読んでゐるのです。
るマッグと河童の恋愛を論じ合ひました。
「女性雑誌」
「女性雑誌」
「女性雑誌」

改選上印

河童の官吏さへ殖えれば、きつと今よりも
の河童は足のけられず
すしそのも効力も知れたもの
つて御覧なさい。」
の河童を足ひすけますのでですね。」
「ガやあるたのやうに暮らせるでせう。」
「一番幸福な訣ですね。」
「このまゝもまゝ訣ですね。」
すると マッグは椅子をうしろへ
置きたまゝ、ため息と一しよに
た。

松屋製

改選上印

「あるたは我々河童ではありませんから、お
わかりにならないのも尤もです。しかしわた
しもどうにかするとひのけられたい気もおこるのですよ。」

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社用紙

七

僕は又五人のトンクや、と詩を学生たちの火会へ入れて、

その日は、一の、未だに、この、

ました。

晩の学校の会場の窓からは会場の様子が見えます。

ん。

やはりだんだんせり上った席に男女の河

二重の三重の四重の五重の、一番後ろの人に耳を傾ませてみるのです。

なとの三五日の音楽会のの外にもおなじ音楽会のの様に、トンクやトンクやと言う小

(SM印 B…1) 10…20

り、一番後の席に坐ってみました。

ロの独奏が終った後、

妙に目の細い河童が一

匹、無造作に譜本を抱へたまま、壇の上へ上

つて来ました。

て、この河童はフロックコオトを着、それから指揮棒を持つてゐます。

ログラムの表へ通り、

ロクラムの表へ通り、

名のハクラバックと云う作曲家です。

フロ

ムを見るまでもありません。

ツクの居眠りをしてゐる人

倶楽部の会員もゐます。

指揮棒をふりまはすのは勿論鳥も木瞬をする河童な

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

僕も元祖だけはそってみろのです。

「Led ——— Cradle」（この「Led」は「Lead」の誤植か）

ログラムも大抵は独逸語を並べてみました。

クラバックは盛んな拍手の中にちょっと我

そへ一礼した後、揮のにピアノの方へ歩み寄

りました。

それこのらやはりクラバックはトツ

イドを弾きはじめました。

クの言葉によれば、この国の生んだ音楽の家

中、等後に比類のない天才だ

クラバックの音楽は勿論、

ろりのピアノの音に恐ろしい耳を傾けてみました。

た。

ドビュッシもマツグも恍惚とせう。

おつてみましたのう、大きいう

ろにも興味を

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

何ぴとも経たる年月にクラバックを掴まへてゐるのだとのこと云ふことです。

そうたものですから、未だにこの三日夢見を見

クラバックは全身に情熱とこめ、戦ふやうに

にピアノを弾きつづけました。

場の中に神鳴りのやうに

禁止」と云ふ声です。

し、思はず後ろをふり返りました。

の声にびっくりした。

分れもるい、一番後ろの席にゐる肥った紳士

の巡査です。

巡査は僕の

と腰とおろしたまま

もう一度

声に「演奏禁止」と怒鳴りました。

それうな気は大混乱です。

ラバック、弾け！

ラムな戦ぶ、おまけに狙ひ撃ちの

ダアの空鐘や石や胡桃や嘘

ラムな戦ぶ、おまけに狙ひ撃ちの

ダアの空鐘や石や胡桃や嘘

ひつてめ！

負けるな！

のうそ

軍官検閲！

軍官検閲！

ク

声の湧き上つた中に拍手

ような倒れる、プロダ

僕つて来るのです。

僕は呆つ気にとられました。

ず、トックにその理由を尋ねようとしました。

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

たと見え、
杉の上に突っ立ち
ハンケチを振け！
弾け！
弾け！」と
叫びつづけてみま
す。
すると
それを見た
かすずトンクの
姉
何と
言葉も
いつの間に
か
高く
笑い
官憲
「官憲
と
叫んでみると
は
少しもトンクに
通りません。
僕は
やむを
得ず
マッグに向ひ、
「どうした
のです？」と
尋ねて
見ました。
「これですよ。」
「これはまた
元来
画だの
文字だのは
一一一一一
ともですよ。
「これですか？」
ほんとうに
ゆかにちよつと
マッグは何の飛んで来るのも
国
あではよくあろ

致を
結び、
それ
更
捧げに
改め
しました。
「元来
画だの
文字だのは
詩の
目にも
何を
表は
すものだけはとんな
に
風俗
変化
する
ものでも、
耳の
ない
人には
音楽だけは
と
云ふ
ものが
演奏
禁止
や
鑑賞
禁止に
なる
のが
行はれ
ません。
唖の
代りに
音楽
家の
指揮
する
曲の
ように
「しのしあの
山
査
耳の
音楽家
のる
のです
か？」
「さあ、
それは
疑問
です
ね。
多分
今の
旋律を
あ
うり
ません
のらね。」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

(SM印　B…1)　10…20
松屋製

間いてみるうちに、細居との
の心臓の鼓動でも思ひあ
「そのう国境検閲は乱暴ですからねえ。
「何、どの国の検閲もより厳重で反つて進歩してゐますよ。
たとへば日本を御覧なさい。
につひ一月ばかり前にすんだ
「そのうちまたお邪魔に上ります。
「やそのうち是非お出で下さい。
鐘の音ちたものですから、
投詞ですと一声叫んだぎり、
つてしまひました。

(1…1)　10…20
松屋製

氏つづき
僕は硝子会社の社長のゲエルに資本家中の資本家
おつてみました。
ゲエルは資本家中でも、
です。
恐らくはこの国の
ルほど大きい脳をしてゐる
たのに驚ひありません。
しかし筋肉に似た細
居や胡仏に似た僧を
のです。
僕はすぐ裁判官のペツプや医者の
まるでゲエルの家の晩餐へ出る
ヤツクにつれられてゲエル

行きました。

又ゲエルの紹介状を持つてゲエルの友人たちの多少の関係をおつてみ

ろ、ろ、ろの工場も見て歩きました。

そのいろいろの工場の中で孑孑に似た僕に面白

かつたのは書籍会社の工場です。

僕は河童の(一匹の)

皆一心に技師とその工場の中へはひり、水力電

気を利用(動力)した大きい機械を眺めたなり、今更

のやうに河童の国の機械工業の進歩に驚嘆しました。

何でもそこでは一年間に七百篇余りの

小説を「生産」するさうです。

僕を驚かしたのは

は本の部数ではありません。

それだけの本を

短時間に印刷するのには少しも手数のかからない

ことです。

何しろその国では本を急ぐのに唯巻(束)ねるばかりですから。

僕は機械の漏斗形の口へ紙とインクと灰色をした

粉末を入れるだけのことです。

僕は機械の中へはいると、

(料)

いうちに菊版、四六版、菊半截版などの無数

の本になつて出て来るのです。

僕はそれ等の本ずつ(の)表紙を眺めながら、

(に流れ落ちる本の)

ちやもちやもちやも

未は行と云ふものかと尋ねて見ました。

と技師は黒光りに光つた機械の方に行んだまま、

つまうるさうにうつ伏事をしました。

「これですか？」

これは馬の脳髄ですよ。

え、一夜乾燥させてうり、ざつと粉末にしたのです。

時価は一噸二三円ですが。

「これは驚くほど高価なものですね。」

「いゝえ、驚くほど安価なものです。」

実際又よれば、

うにもつてみるのです。

画製造会社にも、音楽製造会社にも、同じやうにもつてみる訣ではありません。

給料は一日一弗五十仙の割合ですから、一年働いて三百六十五弗です。

「それは安いですね。」

「いゝえ、高いです。」

「それは安いですね。」

「いゝえ、高いです。」

「それは安いですね。」

「いゝえ、高いです。」

「俺を巻き添えにしたゲエルは如何にも無造作にこう言いました。

「しかし食ってしまうとすぐりません。すると云うのは何のことだかわかりません。

「僕は勿論不快を感じながらも、この時計屋の後ろに若い男としてこの店の前に立ち、横あいのう説明を加へてくれました。

「その職工を殺してしまって、肉を食料にするのです。

「ゲエルは勿論この説明を聞くと、一度に青ざめました。

「今月は六百四千七百十九匹の職工が解雇されましたので、我々の食べた焼き肉の価段も下つた訣です。

「ゲエルはもう一度青ざめました。

「職工は黙つて殺されるのですか？」

「それは駄目ではありません。職工は

「雇主はがあるのですのう。」

「これは山桃の鉢植を後ろに若い男としてこの店の前に立ち、横あいのう説明を加へてくれました。

「僕は勿論不快を感じながらも、この時計屋の後ろに若い男としてこの店の前に立ち、横あいのう説明を加へてくれました。

「ゲエルは勿論、ペップやチャックもそんなことは当然と思つてみるらしいのです。

「現にチャックは笑ひながら、

「朝ごはんに僕に話しかけました。

「つまり餓死したり自殺したりする手数を

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

家助に省暑してやるのですね。

瓦斯を喫ませるだけですのう、大して苦痛はありませんよ。」

「けれどもその肉を食うと云うのは、……」

「常談を言っては困ります。あのマツダに聞かせたら、さぞ大笑ひに笑うでせう。あなたの国でも第四階級の娘たちは毒婦にそつとみてゐるではありませんの？　職工の肉を食うのは感傷主義ですよ。」

「そう云う問答を聞いてみたゲエルは手近ハンド・ウイツケの皿をすすめるのち、性急と僕にこう言ひました。

「ビフテキですね？　一つとりませんか？　これも職工の肉ですのう。」

僕は勿論辟易しました。

「いや、それはこのう……」

「ではありませんか。ヘツフトやケヤツクの笑ひ声を後にゲエル家の客間を飛びあとにしました。

それは丁度家々の空に煙のりも見えない荒れ模様の

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印 78

りながら、

べつの幕があいた。

夜目にも白じらと流れる噴水を。

松屋製

(SM印　B…1)　10…20

改造社印 79

女もなつごろ

九

しかし石炭会社の社長のゲエルは人懐こい河童だったのに違ひありません。僕は度たびゲエルと一しよにゲエルの屋しきへ行き、恰好に一晩を過ごしました。それは訳人倶楽部よりも遥かに居心の善かったためです。

一つにはその倶楽部はトックの屋しきの飾りつけを考へるのみならず、又ゲエルの話は指令有のマツグの話のやうに深みをおもつてゐるためです。

僕には全然うそばかりを、――しかも厚い世界を、――

松屋製

(SM印　B…1)　10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

弟を見ました。

ゲエルはいつも純金の匙に珈琲の茶碗をのきまはしをしながら、快ほに

ハろハろの話をしたものです。僕は

殊に冬の霧の深い晩、僕は

瓶を中にゲエルとの話を聞いてゐました。

彼は確に天井も壁も勿論、部屋全体は

一夜その頃天下を取つてみるやうに覚えて

部屋の隅々に

ハ上に越した金の家をとつた

ゲエルはるんよりも得意さうに

ま、

話しました。

クオラツクス党と云ふ言葉は唯意味

のない會員投票ですよう、

おやといつも趣深く外

全体の利益と云ふことを標榜してゐるものはありません。

勿論、

角帽より先に河童

名ハ政治家の口ツペです。

「クオラツクス党を支配してゐるものはあなたのやうな

交渉とはビスマルクの言つた言葉です。

「正直は最良の

うそ。

しのレロツペは正直を内治の上に及ぼし

てゐるのです。……

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

「けれども口ッペの演説は……

まあ、わたしの言うことをお聞きなさい。

の演説は多分嘘許り嘘です。

誰でも知ってゐますやうに、

それと一概に嘘と云ふのはあるまいが、

わたしの話したいのはロッペのことです。

ロッペはクオラックス党を支配してゐる、

その又ロッペを支配してゐるものは

ずるいのやうに、……しかしそれはどうでもよろし

た。この点だけの偏見ですよ。

我々しすぱ党はあるだけ

それと一概に嘘と云ふのはあるまいが、

誰でも知ってゐますやうに、

の演説は多分嘘許り嘘です。

まあ、わたしの言うことをお聞きなさい。

「けれども口ッペの演説は……

Pork-Pot 新聞の「このプウ・フウと云ふ言葉もやはり

「意味のない、間投詞です。

それは、「ああ」とでも云ふ外はありません。社長

のクイクイです。

「の、クイクイも彼自身の主

人と云ふ訣には行きません。

クイクイを支配

してゐるものはあるたのしむゲエルです。

「それは僕には意外です。

「それでも――

「けれども――

ん。

をする新聞でせう。

社長のクイクイもあ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

改造社印

ちたの支配を受けてみると云のは……

プウフウ私間の記者たちは勿論労働者の味のたです。しかし記者たちを迎えするものはクイクイの外はありません。

イはこのゲエルの後援を受けずにはみられそうもない。

おもちゃにしてみます。

僕はこのゲエルは本相憂鬱微笑しそうに純金の影を

を見ると、ゲエル自身を憎むよりも、プウフウ私間の記者たちに仕事のさせ方を考えるのを風刺しました。

松屋製

改造社印

た。

すると、ゲエルは僕の無言に怒ちとの間情を感じたと見え、そうして大きい脚を組ませて、小声で僕にこのう言うの

です。

何、プウフウ私間の記者たちも全部労働者河の味のたではありませんよ。少くとも我々河童と云うものは誰の味のたをしますとうわ。……しこのし更に厄介なことにはこのゲエル自身さへやはり他人の支配を受けてみるのです。

ある我々自身の味のたをしますとうわ。……しこのたはそれを誰だと思ひますか？

それはわた

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

しの妻ですよ。

「美しいゲエルはお伝声に答えました。

「それはそうとお客さまの仕合せですね。

「先に仲間入りした仕合せは満足してもいますが、

あなたの為だけに、

為だけに手放しで吹聴あそばすのですね。

「するとつまりクオラ(少クス)内閣はゲエル夫人

七年前の戦争などは確かに

「ああ、さうも言はれますね。

「河童であなたの

「しのしこれも

始まつたのにあり

「戦争？

この国にも戦

か？」

「ありましたとも。

「将来もいつまうのり

きません。

何しろ鄰国のある限りは……」

「鄰国(僕は実際この

なお始めて

河童の国

国家的に孤

立してみるまでは

「ゲエルの説

をするところによれば、

「河童はいつも獺を假設

敵にしてみると云ふことです。

「しのも獺は河

童に負けるまへてみると云ふことです。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

す。

僕はこの猿を相手にして重の戦挙した話に

少のらず興味と感じました。

（何しろ河童の強敵に猿のみるると云々とは水虎考畧の著者柳田国男さんさへ知らずにみたらしい新事実ですのう。）

「あの戦争のきっかけは勿論、山島民譚志の著者柳田国男さんも論而国とも油断せずに相手の相手を窺ってみましたと云々の

はどちらも同じやうに相手を恐怖してゐたのです。

そこへ此の国に河童ぢゅう一匹、或河

重の夫婦を訪問しました。

云ふのは亭主を殺すつもりでみたのです。」

しろ亭主は道楽者でしたのうね。

余保険のつけてみたことも多少の誘惑にもなつたすも知れません。」

「あなたはその夫婦を御存じですか？」

「ええ、――いや、雄雌の河童だけは知つてゐます。

「無人島より無人島の河童に囲まれて

うに言つてみますのね。

せれば、

とを恐れてみる被害妄想の多い狂人です。……

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

……そこでその獺は此の河童は亭主のココアの茶碗の中へ青化加里を入れて置いたのです。

それを又どう聞きへたか、客の獺に飲ませて……

まったのです。

獺は勿論死んでしまひました。

それから……

戦争にそれ(これ)ろったのですか？」

それ、生憎その獺は勇力章をおってみたものです。

三十六萬

戦争はどちらの勝にろったのですか？」

勿論その国の勝にろったのです。

「ですのうね。」

松屋製

九千五百匹の河童はそのみに健気にも戦死しました。

しかし敵国に比べれば、その位の損害は何ともありません。

獺の国にある毛皮もと云ふ毛皮は大抵獺の毛皮です。

わたしもあの戦争の時には石炭を製造する外にも盛んに石炭殻を消費して戦地へ送りました。」

石炭殻を何にするのですか？」

勿論食糧とするのです。

河童は腹さへ減れば、何でも食ふのにきまってゐますのうね。」

それは――どうぞ悪しからず下さい。

それ

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社用紙

は戦地にゐる河童(たち)には……

は画伯(閣下)ですぢゃね。」

「この国でも画伯には尊ひありません。しわたし自身のう言ってみれば、誰も画伯(閣下)に

はしろいものです。却つて下等な者のマッグ(砲)を言って

みるでせう。」

「汝の悪は汝自ら言へ。悪はおのづから消滅すべし。」

「しかもわたしは利益

のおにも愛国心に燃え立ってゐたのですから

ね。」

丁度そこへはひって来たのは偶然部の

給仕です。

給仕はゲエル(ゲエル)にお辞宜をした後、

朗読でもするやうにの

う言ひました。

「お宅の御隣に火事ぢございます。」

「火――火事!」

ゲエルは驚いて立ち上りました。

「火事ぢございますが、給仕は落ち着き拂つ

て次の言葉をつけ加へました。

「上つたのは勿論です。」

「しもう消し止めました。」

ゲエルは給仕を見送りながら、泣き笑ひに近い表情をしました。

僕はこのう云う歌と見る

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98　　ガラス使用

と、
いつのこの肯る冷社の
社長を憎んでみに
ことに気づきました。
この、
今は大資本家でもほてる
はずの大きい。住のしの重にる
つてゐるのです。
僕は花瓶の中の薔薇
の花を抜き、ゲエルの手へはしました。
しのし火事は消えたと云つてし、奥さんは
さでお驚きでせう。
さあ、これをおちつてお帰
りさい。
雑有う。
ゲエルは僕の手を握りまもだ。
それらう急に

にやりと笑ひ、小戸にのう僕に話しのけまし
た。
都は僕のしの家作ですよ。
このらね。
金だけはとれるのです
僕はその俺の満腹の張
僕は未だその時のゲエルの微笑を
とも出来ずれば、憎無
ハゲエルの微笑を未だにあり
ありと覚えてみます。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印

十

「どうしたね？　けふは妙におさいでつるちやいか？」

或る火事のあつた翌日です。僕は僕の家の二階に肺を患つた姉と寝てゐました。

長崎へ来てから、僕の家は客間の真裏に当つてゐました。実際又ラツプのやうに言ひ甲斐のない音を聞いたのです。

のラツプにかう言ひました。

右の脚の上へ左の脚をのせたまま、寝つた儘ぢつと天井を見てゐたのです。

「どうしたんだと言つてゐるのに。」

「ラツプ居、どしたねと言へば。」

「いや、何、つまらない、ことなのです。」

ラツプはやつと欠伸を堪へ、

「僕はけふ窓の外を見てゐたら、」

「おや、虫取りですか？」

「虫取り菫よと当り散らすずやありません。」

「どうせわたしは急に顔色を変へたと思ふと、

「又僕のおふくろも妹大の妹の肩で」

「まつたく！」

すうう、やはり僕に食つてかゝるのです。」

改造社印

「ラツプ居、どしたねと言へば。」

「いや、何、つまらないことなのです。」

ラツプはやつと欠伸を堪へ、

「僕はけふ窓の外を見てゐたら、」

「おや、虫取りですか？」

「虫取り菫よと当り散らすずやありません。」

「どうせわたしは急に顔色を変へたと思ふと、

「又僕のおふくろも妹大の妹の肩で」

「まつたく！」

すうう、やはり僕に食つてかゝるのです。」

じまーした。

「僕はけふ窓の外を見てゐたら、」

「おや、虫取りですか？」

「虫取り菫よと当り散らすずやありません。」

「どうせわたしは急に顔色を変へたと思ふと、

「又僕のおふくろも妹大の妹の肩で」

「まつたく！」

すうう、やはり僕に食つてかゝるのです。」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

「虫取り菫が咲いたと云うことはどうして妹さんには不快なのだわ？」

「さあ、多分姉のしの菫を摑まへると云う意味にでもとったのでせう。」

悪ハ叔母も宣嘩の仲間入りをしたのです。

「それだけでも始末の悪いのに財布を盗むが早いと、誰彼の差別なしに殴り出したのであるが、年中酔っ払ってゐるおやぢはこの宣嘩を聞きつけて、「それ」とばかりに仲裁

のキネアが行がを見に行ってしまひまし

た。

「僕は……ほんたうに僕はもう……」

ラップは両手に顔を埋め、何も言はずに泣いてしまひました。

僕の同情したのは勿論彼にではなく姉にでした。

「姉さんは家族主義に囚はれてゐるんだ。」

僕はラップの肩を叩き、一生懸命に慰めました。

「そんなことはどうでもあり勝ちだよ。」

「しのし……しのし噛でも宿つてみるがいゝ。」

あゝ、実気をおし給へ。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

ば、
……
それはそうとして あきらめろ外はろくさ。
クの家へでも行こう。
「トックさんは僕を軽蔑してみます。
僕はトックさんのやうに大勝奔放に家族を捨てることの出来ません。」
「ぢやクラツバックの家へ行こう。」
僕はあの音楽会に来、
クラバックにも友だちにならつてみましたり、
兎に角この大音楽家の家へラップをつれ出すことにしました。
クラバックはトックに比べれば、常人にはほど遠い芸術家である事を云ふ意味ではあり

ラバックはトックに比べれば、常人にはほど遠い芸術家である事を云ふ意味ではあり
ません。
唯いろいろの骨董を、——タナグラの人形やペルシアの陶器を部屋一ぱいに並べ
た中にトルコ風の長椅子を据ゑ、クラバックは自身の肖像画の下にいつも
ある供たちと話んで
みるのやうに暮らしてみます。
僕と云ふ
のは
硝子戸に鶏冠に
(泊本家のゲ)

改造社印

面に散らばつてみました。

ツクとタクとは一しよになたびクラバックには雪つて

みる筈です。

しるしてこの容易に恐れたと見

えけふは丁寧にお辞宜

をしたり、黙つて

部屋の隅に腰と下ろしました。

どうしたね？

クラバック君。

僕は始めて接待の代りに

ラックとポケットの

どうするのか？

批評家の阿呆め！

僕

のけました。

僕は始めて接待

の持ち方とトツクの持ち方と比べものにならう

改造社印

と言やがんだ。

しるし居は音楽家だレ！

それだけらば我慢も出来る。

僕はロックと比べやすやすと通俗音楽家の名に価しるかと

言やがちやるか？

ロックと云ふのはクラバックと違たび比べられる音楽家です。

が、往来を人倶楽部の会員にもなつてみません。僕は一夜

たことはありません。

も嘴を反り上つた、、

大、一癖あらうが、

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

見てみました。

「ロックも天才にはこの音楽に感れてゐる代物は居の情熱をおつてみない。しのしロック

「居はほんたうにさう思ふか？」

「さう思ふとも。」

すると クラバックは立ち上るが早いか、夕

ナグラの人形を一つ掴み、きつけました。ラップ。

きつけました。ラップ。

何か声を挙げて（叫び）ようとしましたが、

ラバックは余程驚いたと見え、

何か声を挙げてようとしましたが、

ラバックは便ツプや僕にちよつと驚くなと云

105

ふ手真似をした上、今度は冷たのにうう言ふの

です。

「それは居も亦俗人のやうに耳をおつてみる

のだ？」

「居が？」

「誰が講釈師の家を売どるものか？」

沖一君たちは僕の後から僕の家へ来たがつて

に気どつて見せるから、

「では行を恐れてみるのだ？」

僕はクラバックは天

やうに見せてみる。

僕は——

大だ。

その点へではロックを恐れてみない。」

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

何か正体の知れるいものを、――言はば口ツクを支配してみる星を。

どうも僕には脈に落ちるいのね。

では、このう言へばわうだらう。

口ツクは僕の景色を受けそしまうのだ。

それは唇の感受性の……

まあ、聞き給へ。感受性そどの問題ではなく僕はいつの間にか口ツクの景色を受けてしまうのだ。

それは口ツクの目のうら

見れば、

耳は一歩の差うも知れそい。

けれど僕には十哩も遠うのだ。」

「この先生の英雄崇拝曲は……

（細い目を一層細めて、己れさえ忘れたさうに）

クラバツクはラシクを睨みつけました。

「默り給へ。

居るどに何だわかる？

僕は口ツクに平身低頭す

僕の知つてみるのだ。

口ツクはどもよりもロツクを知つてみるのだ。」

「まあ、少し靜かにし給へ。

若し神のにしてみられるならば、……

僕は

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

何ものかは僕を、――クラバックを嘲るために立たせたのだ。

口ックを僕の為に立たせたのだ。

（消）そうこと云うことを行うも彼も承知してみるのやは不

いつもあの色硝子のランタアンの下に古ぼけた本ばかり読んでゐる癖に。

「どうして？」

「その頃クラバックの書いた「阿呆の言葉」と云ふ本を見給へ。――」

クラバックは僕に一冊の本を指すと、

云ふよりも投げつけました。

それから又腕を組んだまま、

「やけくそは失敬しよう。」

突けんどんにこう言ひました。

僕は悄気返ったクラックと一しよに（人通り）の不

一度往来へ出ることにしました。

多い往来は不相変毛虫生憎の並み木のかげに、

ろはろの店を並べてみます。

僕等は何と云ふ（訳）もなく、

ともそれに黙つて歩いて行きました。

とそこへ通りかゝつたのは長い髭の長い行人のト

ックです。

トックは僕等の顔を見ると、腹の

袋（ポケット）うまを出し、

何度も額を拭ひました。

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

「やあ、暫らく、會はないったね。
久しぶりに
クラバックを尋ねようと思うたのだが、……
僕はての藝術家たちを宣傳させてはと思ひ、
クラバックの如何にも不様だったこと
とを婉曲にトックに話しました。
「さうの。
がやめにしよう。
何しろクラバックは神経衰弱だからね。……
周圍は眠られないのに弱ってみるのだ。
僕等と——しよにに勤めをしてはは？
「どうだね、
「いや、けさはやめにしよう。
「おや！

トックはうつかが、しつこのり僕の
腕を（掴み）ました。
しのもいつこの体中に冷汗
を流してゐるのです。
僕等は
「どうしたのだ？
「どうしたのです？
「何に、
あの毛虫（自動車の窓の中）の様に
一匹首を出したやうに見えたのだよ。
僕は多少心配になり、
死に角あの医者の
ヤックに診察して貰ふやうに勧めました。
このレトックは何と言ってゐる、
承知する気色さ

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

へ見せません。

のみろうず
何の筈はしさうに
僕等の顔を見比べながら、
こんなことさへ言ひ
ひおすりです。

僕は決して無政府主義者ではるゝよ。
それだけは忘れずにみてくれ給へ。……
ではさやうなら。

チヤックそれは眞ほんやりと
僕等は思はず佇んだまゝ、
トックの後ろ姿
まつぴらごめんだ。

僕等はーーーーーー
いやー
僕を見つてみました。
僕等はではありません。
學生の
ラップはいつの
間にか往来のまん中に脚をひろげ、
腰をつきり

自動車や人通りを
また眼目
です。
僕は
その河童
も発狂
したかと思ひ、
驚いて
ラップを引き
起して
ました。
「常談じやない。
何をする。」
何を
してゐる
んだ?」
しのレインコップは
目を
もすり
るんだら、
言ふ外に
も
落ち着いてゐる事をしました。
「いえ、余り憂鬱ですからね、
眼鏡
まに世の中を
眺めて見たのです。
けれどもすこし
やはり同じことです
ね。」

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

十一

これは哲学者のマングの書いた「阿呆の言葉」の中の（この章）節かです。

阿呆はいつも彼以外のものを阿呆であると信じてゐる。

×

我々の自惚は我々を憎んだり嫉妬したりしやうもそれとは自惚は我々を愛するのは

最も賢い生活は一時代の習慣を軽蔑しそのもの

×

らしの習慣を破

とである。

（又）少しも

我々の最も誇りたいものは我々の哲つてゐ

×

ものだけである。

何びとも偶像を破壊すること

に異なを哲つ

てゐるものに同じ何びとも偶像に

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

偶像の台座の上に安んじて坐つてゐられる。

のは最も神々に恵まれたもの、――

悪人か、英雄かである。（クラバックはこの草の上へ仏の痕をつけてみました。）

×

我々の生ほに必要な思想は三千年前に盡きたのも矢。れるい。

我々は唯古い思想に新しい炎を加へるだけである。

我々の生色は我々自身の意識を超越するもの

を常としてみる。

×

幸福は苦痛を伴ひ、

平和は倦怠を伴ふとす

れば、――？

×

自己を弁護することは他人を弁護することを見よ。

より困難である。疑ふ

×

予言、愛慾、疑惑、――

（あらゆる宗教者は三千

年来、

この三者のう発してみる。

同時に又あ

（恐らくは）

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98
ガラス使用

らゆる徳も。

X

平和は物質的欲望を滅ずることを

和を斎さない。

平和を得るためには精神的放棄

も滅じなければならぬ。

の上にも刀の痕を残してゐます

ラバックはその章

我々は人間よりも不幸である。人間は

ほど進化してゐない。

この章を読んだ

なほ悪はず衰ってしまひました。

X

成すことは成し得ることである。

ことは成すことである。

我々の生活はのうち

X

即ち不合理に終始してゐる。

ゐ循環論法を脱することは出来ない。

ボオドレエルは白痴に生れた彼を

観をたつた一語に、——女陰の一語に表白した。

つたことではない。

寧ろ彼の天才に、——彼

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

生活を維持するに足るうち的天才に信頼したるに男女の一語を忘れたことである。（この一章に

もやはりクラバックの仏の痕は残ってみまし

た。

×

若し理性に終始するとすれば、我々は我々自身の存在を否定しなければならぬ。

即ち人間の河童よりも進化してゐるいことを

にしたヴォルテエルの幸福に一生を了つたのは

示すものである。

改造社印

改造社印

飽きました。

した。

二

斜切り合に寒い午後です。

僕は「阿呆の言葉」を読み

した。

すると或町の角に賛美のやうに痩せた仏

童が一匹、ぼんやり壁によりかゝつてゐてみま

した。

しもそれは紛れもない、ハつの僕の

銀行員の年齢計を盗んで行つた仏童なのです。

僕はしめたと思ひましたらー

つた、足しい巡査を呼びとめました。

ちようとあの河童を取り囲べてゐさい。

あ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社版 122

の河童は丁度一月ばかり前にわたしの銀時計を盗んだのですう。

巡査は右手の棒をあげ、この河童の国の巡査は会釈の代りに水松の棒をふってみるのです。

「お、お兄さんとその河童へ戸をつけました。

僕はこの河童の国の巡査は会釈の代りに水松の棒をふってみるのです。

或はその河童も巡査を出し抜けなしるいかと思って暫く掴まって巡査の首へ手をまわしました。

しかし巡査はやはり僕の頭を撫でるばかりです。

のみならず脇と脇とを組んだまま、ろばじろじろ見廻すのです。

改造社版 123

「何の為だ？」

「グルック？」

「君の名は？」

「君の名は？」

「早速ながら向にとりかかりましょう。」

「手帳をあらて脳髄を出せ。」

「よろしい。」

「君はこの国の人の申し立てにより君の銀時計を盗んだ為に行ったと云うことだがね。」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

「ええ、一月ばかり前に
「何のために？」
「お伽の玩具にしようと思ったのです。」
「そのお伽は？」
「ム」雪は始めて相手の河童へ鋭い目をはぎ
した。
「一週前に死んでしまひました。」
「死亡證明書を持つてみろ、うわつ？」
痩せた河童は脇の机の上の紙へ目を通すと、急に
にやにや笑ひ出しながら、
「よろしい。どうも御苦労だつたね。」
相手の肩を叩きました。
僕は呆気にとられたまま、心雪の form を眺め
てゐました。
その内に痩せた河童は何か
のぐづぐづ呟きながら、僕を後ろに行つて
しまふのです。
僕はやつと気をとり直し、この
う心雪に尋ねて見ました。
「どうしてあの河童を捕まへるのです？」
「あの河童は殺罪ですよ。」
「しかし僕の鋏が盗んだのは……」
「ム」雪は始めて相手の河童へ鋭い目をはぎ
した。
「一週前に死んでしまひました。」
「死亡證明書を持つてみろ、うわつ？」
痩せた河童は脇の机の上の紙へ目を通すと、急に
にやにや笑ひ出しながら、
「よろしい。どうも御苦労だつたね。」
相手の肩を叩きました。
僕は呆気にとられたまま、心雪の form を眺め
てゐました。
その内に痩せた河童は何か
のぐづぐづ呟きながら、僕を後ろに行つて
しまふのです。
僕はやつと気をとり直し、この
う心雪に尋ねて見ました。
「どうしてあの河童を捕まへるのです？」
「あの河童は殺罪ですよ。」
「しかし僕の鋏が盗んだのは……」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

「お供の玩具にするぬだつたのでせう。

お供はもう飽んでみるのです。若し何の御不

さい。」

宵だつたら刑法千二百八十五條をお調べる

心當はうう言ひすてたなり、さつさとどこ

のへ行つてしまひました。

きせんから、刑法千二百八十五條を僕の中に

繰り返し、

マツグの家へ急いで行きました。

学育のアツグは落胆甚だしきものです。現に

いお屋には裁判官のペツプなる者の

ペツプは金口の煙草の煙と僕等の

吹き

や硝子会社の社長のゲエルそどが集り、僕も

絶の色硝子のランタアンの下に煙草の煙を立

ち昇らせてみます。

僕に裁判官のペツプ

の来訪みたのは何より

も僕には如何合ず。

僕は椅子にうけろが早いか、

刑事数人ペツプへ飛び掛かりました。

五條を捻べろ代りに早速ペツプへ向ひうかま

した。

ペツプ居、甚だ失礼ですが、この国では僕

人を罰しろいのですか？

ペツプは金口の煙草の煙と僕等の

吹き

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

上

げ(てから)後、如何にもつまらさうにそうをしました。

「罰しますとも。死刑さへ(行はれ)ある(に)位ですのよね。」

「しかし僧は一月ばかり(の)内に、……」

僧は委細を話した後、

刑(の)法千二百八十五條

「ふむ、それはうそのです。」

(犯)罪を犯(行)したり(た)と雖も、その(該)犯罪を極(定)めた(る)相当の(刑)事情の消失した(る)後は該(その)犯罪者を(に)処(行)せ(ざ)ざる(る)如(ごと)きを得ず(ざる)つまり(ものと)あるたの場合ぢで言へ

改造社印

ば、

その(の)罪は當(あて)はめ(れ)ば(る)現だつたのですから、

「それはどうも不合理ですね。」

「常話を言つてはいけません。」

(現だ)ある(る)罪も同一に見るのぞ不合理で

伝律では同一に見ると

とにるつてみるのですね。

「それはどうも我々

にはこ(二)の種ぢです。

ふふふ。

ふふふ。

ふふふ。

ふふふ。

ペツプは巻煙草を取りおしるぐら、気のる

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

120

い彦ちゃんを残してゐました。

したのは法律には縁の遠いヤックたちと兎目鏡を直し、助手に働いてゐました。

「日本にも死刑はありますか？」

「ありますとも。日本では絞罪です。」

僕は婆さんと構内をぶらぶら歩いてゐました。

「この国の死刑は日本よりも文明的に出来てゐますか？」

「それは勿論文明的ですよ。」

ペップはやはり落ち着いてゐました。

「この国では絞罪などは用ひません。大抵は斬罪です。」

電気を用ひることもあります。しかし大抵は電気も用ひません。唯その犯罪の名を言つて置くだけです。」

「それだけで河童は死ぬのですか？」

「死にますとも。我々河童の神経作用はあらたのですよりも微妙ですからね。」

「それではみんなでせうね？」

「それは勿論文明的ですよ。」

ペップはやはり落ち着いてゐました。

「この国では絞罪などは用ひません。大抵は斬罪です。」

電気を用ひることもあります。しかし大抵は電気も用ひません。唯その犯罪の名を言つて置くだけです。」

「それだけで河童は死ぬのですか？」

「死にますとも。我々河童の神経作用はあらたのですよりも微妙ですからね。」

改造社印

130

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

「それは死刑ばかりではありませんよ。殺人にもその手を使えばのがあります。」

社長のゲエルは色硝子の光に顔中紫に染まりながら、人懐っこい笑い声をたてました。

「わたしはこの間も或社会主義者に電話を掛けてみたのですがね。」

「それは案外多いやうですね。わたしの知つたものです。」

渡辺崋山

「わたしはこの間も或社会主義者に電話を掛けてみたのですがね。」

脳溢血

渡辺崋山

と言はれたために人殺しを思ひとまつたものです。」

「それは案外多いやうですね。わたしの知つたものです。」

僕はこのロを入れたガラス瓶を元のやうにテエブルの上へ置きました。

「その蛍は誰のに蛙だと言はれ、」

「この国では蛙だと言はれ、」

あるたもとを眺めてゐるのです。

「それでせう、」

「それでせうとは。」

はつきりした意味を表すことばを知らない人間と云ふ意味です。

「己は蛙かな？」

「蛙ではないかな？」と毎日考へてゐるうちにとうとう死んでしまつたものです。

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98　　ガラス使用

「それはつまり自殺ですれ。」

「そもそもその一章を自殺だと言ったのですがれ。」

「もりで言ったのですがれ。」

「ばーやはり殺したやつは殺すつもりだったのですがれ。」

丁度マッグガのうつ伏した分です。

部屋の壁の向うに、

その家に鋭いピストルの音が一発、

わき返へすやうに響き渡りました。

三

僕等はトミイの家へ駆けつけました。

トミイは右の手にピストルを握り、頭の四方を血を出したまま、高山植物の銃植込の中に仰向けになつて倒れてゐました。

その又側には此の頃の一匹、トミイの胸に頬を埋め、大声に泣いてゐました。

僕は此の河童を抱き起しながら、一体僕等は何の為に争つたのだらうと思つたりしました。

皮膚に手を触れることも余り好んではゐない僕は勿論争つた後も河童の

を焼げて汚いてゐましたが、

のですが、どうしたのですか？」と尋ねました。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

「どうしたのだの、われのりませんの。

いてみたと思うと、いきなりピストルで頭を打ったのです。ああ、わたしはどうしましょう？」（ピーターキーターキーターキーターキーターキーターキー）

泣き声です。）

「何しろトック君は貴族（偉）だったのうねの。」

硝子会社の社長はのゲエルは（あまり）頭を振りながら、

（裁判官のように言いました。）

しかしツァは行きませんに金口の巻煙草に火をつけてみましたと今まで跪いてゐたトックは元来胃病でしたのうそれだけでも憂鬱になり易いのたのです。

「何の書いてみたと云うことですが」。

哲学者のマックは弁解するやうにのう独り言を洩らしながら机の上の紙をとり上げました。（丈も僕だけは例

クの創口などを調べてみたチャックは如何にも医者らしい態度をしたまま、僕等五人に宣言しました。（実は一人と四匹とです。）

「もう駄目です。トックは元来胃病でしたのう、それだけでも憂鬱になり易いのたのです。

「何の書いてみたと云うことですが」。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

改造よ印

138

外です。

幅の広いマツグの肩越しに一枚の紙を覗きこみました。

「岩さ、立ちて行のん。海婆婆を隔つる谷へ。」

岩むらはこごしく、やまひめ草の花はにほへる谷へ。」

マツグは僕等をふりかへりつゝ、微苦笑と一しよにこう言ひました。

「これはゲエテの「ミニヨンの歌」の剽窃です。よ。

するとトツク尼の自殺したのは詩人としても疲れてゐたのですね。」

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

改造よ印

139

そこへ偶然自動車を乗りつけたのはあの青

巣鴨のクラバックです。

云ふ光景を見ると、俄かに戸口へ歩み寄るとクラバックは

「うち？」

マツグは髪をかはり鮨ずに逆立てたまゝ

「ハヤ、最後に書いてみたうちです。」

「それはトツクの遺言状ですか？」

けるやうにマツグに話しかけました。

ーた。

「うち」を抜きました。

クラバックはトランクにもたれながら

にはは目め

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

140

もやらずに私にその訳を
た。しかもマツグの言葉には
その通りです。

「いざ、立ちて……僕も亦
りませんの……海海男を隔つる谷へ。……
しかあたはトツク君と
たのです。」

「あゝたはトツク君の死をどう思ひますか？」

「親友？トツクはいつも孤独です。」

「岩むらはこでしく……
「不幸にも？」
「やま水は青く、……
「岩むらはこでしく。……
僕は未だに泣き声を絶たゐ
悔しましたのう、
そつ肩を抱へ。
部屋の隅の長椅子へつれて行きます。
には二歳の三歳のの河童が一匹、
に笑つてみるのです。
僕は此の河童の代りに
る供の河童をあやしてやりました。
すると、

改造社印

141

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

改造社印

ま 142

つの僕の目にも底のたまるものを感じました。

僕の河童の国に住んでみるうちに涙と云ふものをこぼしたのも等にも後にもそのなんだけです。

「しのうふうこそ我然な河童と一しよにそつた家族は気の毒ですね。」

「しろあとのことをそへるいのです。」

裁判官のペップは松葉巻に火を

つけるのら

滑卒家のゲエルにたのは五日ぐらのクラバックは細い目を赤い

「しめた！

すばらしい

据ったまま、誰にともそしに手びのけすした。

飛んで行きました。

多分

所の河童が大勢、トックの家の戸口に集まり、

しのクラバックはすの云河童たちを底二

珍らしさうに家の中を覗いてみるのでで

無二右へ押しのけるが早いか、

ひらりと月

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

改造社印

143

クラバックは細い目を赤い

のせたまま、

ちよつとマックの手を据ると、

ときなり戸口へ

クラバックは討行を

多分

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

144

動なへ飛び乗りました。

暴風雨の音を立てて降りどこかへ行ってしまいました。

「こら、こら、さう騒いではいけません。」

裁判官のペップは巡査の代りに大勢の河童の声をしめてしまひました。

部屋の中はそのせゐかひっそりうつたものです。

僕は高山植物の花の香に交つたトックの匂を感じながら、静かに息を引き取りました。

(SM印 B…1) 10…20

改造社印

145

このあの折の者のマッグだけはトックの死骸を眺めたまま、ぼんやり何を考へてゐるのです。僕はマッグの肩を叩き、「何の為に泣いてゐるのだ？」と尋ねました。

河童の生活と云ふものをお話しませう。

「河童の生活などうなのです？」

「河童の生活は何と云つても、河童の生活を完成するのにはまだ／＼多少欠点のある声でつけ加へました。

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

146

死に用ゐる一の重ものの仕事のものの力を信ずるとゝですわ。」

改造社印

僧に宗教とゝもものを思ひさせたのはう云ふマツグの言葉です。

僧は勿論物質主義者ですから、宗教――殊にキリスト教と云ふものに重点のあることは一度もそう云ったのに過ぎません。

僧はトツクの死に戦慄動揺を受けてみたために――その体面に宗教は何であるかと考へ出したので

僧は早速学生のラツプにこの問題を尋ねて見ました。

「基督教、佛教、モハメツト教、拝火教、それは基督教。」

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

松屋製

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造よ印
147

行はれてゐます。

まづ一番勢力のある

のは何と言つても近代教でせう。生佛教と

も言ひますがね。」（生佛教と云ふ訳語は当つて

ゐるかどうか知れません。）原語は Buddhism で

す。これは英吉利語の Buddhism と云ふ意味に

当ります。Buddha（仏陀）は「生れた人」と云ふ意味です。）

Buddhism の原形 Buddha（仏陀）は「生れた人」と云ふよりも「飯を食つたり酒を飲んだり、穴

「ずやての国にも教会だのちだのはあるが、訳せ

はそうなのだわ？」

改造よ印
149

常話を言つてはいけません。近代教の大寺

院などはその国第一の大建築です。

す。ちよつと見物に行つてはどうです。

一しよにその大寺院へ行きました。時刻は

丁度（生憎）午後、ラップは得々と僕と

ある大仏（建築）を一つに組み上げた

そうずあらゆる建築様式を一（ここでは建築）の十倍

れはもある大仏（建築）です。僕はその大寺院の等にそ

ち、高

塔や四角屋根を眺めた。何う無気味にさへ

風です。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印 150

ださって感じました。実際それは天に向って伸びた死物の蠟手のやうに見えたものです。僕は玄関の前に佇んだまま、しばらくの間それを眺めてゐました。

大寺院の内部はもう殆ど廣大です。その中に参詣人が行き来してゐます。その人もまばらになつた中に円柱の立つた御堂の縁の欄干に凭れながら、僕は余り怪しくもない一匹の河童に出合ひました。すると河童は僕に比べると、小さ過ぎるやうに非常に小さく見えたものです。僕はこの河童の姿を見上げてゐるうちにだんだん好奇心を感じ出しました。しかしそれは僕はこの河童の姿を見上げてゐるうちにだんだん好奇心を感じ出しました。しかしそれは僕よりも寧ろ余計に河童自身の方に多かつたのです。

「君は何を考へてゐるのだ？」

河童は僕の言葉よりもリント風の簡単な日本語を使ひました。

「何を考へてゐるか？　あるなも不相変、――」

僕は河童の言葉を繰り返しながら、何を考へてゐるか考へようとしました。

「不相変、――不相変何とかしてゐるのだらう？」

「不相変何とかしてゐるのだ。

改造社印
152

にやつと気がつゐたみだつたでせう。

あ、兎に角御おまゐりしやうですね。この、け

ものはどうして又……

「けものはての方のお伴をして来たのです。

方は多分御承知の通り、――

そこらう。

らラツプは御そうと仏蘭西のとをお話しまし

た。どうも又それはての大寺院へラツプの

減多に来ることの無い解にもろつてみたらし

いのです。

「京ハてはどうかその方の御京内を感ひたい

のですが」

と田舎

長老は大様に微笑しながら、まづ僕に挨拶を

し、

「静かに大乗院の処堂を見まし出しました。

「御案内と申しても、何も御役に立つことは

出来ません。我々信徒の礼拝するのは正面

の祭壇にある生命の樹です。

生命の樹には御

陰の通り、金と緑との果がなつてゐます。あ

の金の果を善の果と云ひ、あの緑の果を悪の

果と云ひます。……」

僕はのう云ゑ詮めの中にもう退屈を感じ

改造社印
153

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

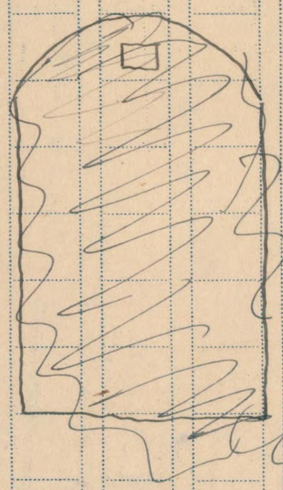
出しました。

それは折角の長老の言葉も古い喩のやうに聞えたのらでです。

僕は何篇かに聞いてみる容るを笠に着てみました。

併し女は大方院の内部へそっと目をやるのを忘れずにみました。

大寿院の内部は署風にゆすると、大体下に掲げる通りです。



コリント風の柱、

ゴシック風の窓、

アネビ

アばみた帝拓そまま風の祇摸様の床

セセツシヨン紛ひの

の作つてみる調和

しるし僕の

は伽利野妻な美を具えてゐます。

祈禱机、――

うう云ふものの作つてみる調和

目を惹いたのは何よりも正面側の合龍の中にあるしるし僕の

大理石の半身像です。

僕は何かを何かを等の像を

見知つてゐるやうに思ひました。

それも亦不思議はありません。

あの顔の反つた重は生前の月の曲

金の椅の説めをすると、

と一しよに右側の金の等の

の中の半身像にのう云ふ説めと加へ出しました。

今夜は僕やうツフ。

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

た。

「これは我々の聖徒の一人――聖徒ストリ（あゆるものに反逆した）ントベリイです。

この聖徒はさんざん苦しんだ揚句（あげく）、スウェデンボルグの指令のために救はれたやうに言はれてゐます。

が、実は救はれる

のつたのです。

その聖徒は唯我々のやうに生

信徒（教）を信じてゐました。――と云ふよりも信じる外はなかつたのです。

が、論（あげつら）はこの聖徒自身（せいとじしん）の我々に残した傳説と云ふ本を読んでゐるさへ。

て

白してゐます。」

僕はちよつと憂鬱になりまし、次の會釋にある半身像は口髭の太い

た。

次の會釋にある半身像は口髭の太い

独逸人です。

「それはツアラトストラの

ストラの如く人ニイチエです。

「しまつたのです。

若し気違ひにさうさうつ

ました。

が、やはり救はれずに気違ひにさうつ

た。

の聖徒は聖徒自身の造つた超人に救ひを求め

ると出

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印

158

長老はちよつと黙つた後、第三の會籠の中へ案内なました。

「三番目にあるのはトルストイです。その聖徒は誰よりも苦行をしました。それは元来貴族の出身だつたのに公衆に苦しみを見せる爲に態と奇人の如く仕向けたのです。その聖徒は事実上信ぜられない基督を信じようと努力しました。それはやはり如何に公言したのです。しかし晩年には悲壮な虚つきだつたことに堪へられないやうにもう一度信じ出したのです。

「第四の會籠の中の半身像は意外にも我が日本人の一人です。僕はその日本人の数を見た時、意外なのに驚き更に感慨を感じました。

「それは国木田独歩です。

「僕はその聖徒を自殺したのではありますまい。何れにしろ聖徒の数にはひつてゐるのは有名です。

「僕はその聖徒を時々書斎の窓の梁に恐怖を感じたことも確かです。しかしそれも聖徒の数にはひつてゐるのは有名です。

「僕はその聖徒を時々書斎の窓の梁に恐怖を感じたことも確かです。しかしそれも聖徒の数にはひつてゐるのは有名です。

松屋製

改造社印

159

「僕はその聖徒を自殺したのではありますまい。何れにしろ聖徒の数にはひつてゐるのは有名です。

「僕はその聖徒を時々書斎の窓の梁に恐怖を感じたことも確かです。しかしそれも聖徒の数にはひつてゐるのは有名です。

「僕はその聖徒を時々書斎の窓の梁に恐怖を感じたことも確かです。しかしそれも聖徒の数にはひつてゐるのは有名です。

「僕はその聖徒を自殺したのではありますまい。何れにしろ

改造社印

160

あります。

「では第二番目の會話の中を御覧下さい。」

「これはワグネルでは ありませんか？」

「さうです。国王の友だちだつた革命家で す。聖徒ワグネルは晩年には食糧の補給より も精神へ

「この発信の後信徒の一人だつたのです。」

「僕等はもうその時には カルバの死の為に駆りやつた かわの

「僕等はもう六の會話の為に立つ

松屋製

改造社印

161

てみました。

「これは聖徒ストリンベリイの友だちです。」

「僕の大勢ある細君の代りに十三四の雪夜の女

女と擦つた株屋上りの佛蘭西の聖徒は太い血管の中に水夫の血を流してみ

ました。

「が、唇を御覧なさい。」

「疱瘡が残つてゐます。第七の會の中にあるはずです。」

「……もうありはしません。」

「このうへお出で下さい。」

「僕は実際疲れてみましたのら、」

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造よ印 162

しよに長老に従ひ、雪の
野部屋へはひりました。

爺さんは黒いヴェヌスの像の下
に山葡萄の一ふさを供へて
その又等身大の半陽の像の
じてあるので僕は何の装飾もない僕房
を想像してみただけにちよつと意外に感じま
した。

すると長老は僕の答えるにこのうえ
ちを感じたと見え、僕等に椅子を勧める
半ば元の垂さうに説明しました。

どうこの我々の宗教の生活様式であるとともに
れずは下もの神、――生命の樹の教

(SM印 B…1) 10…20

改造よ印 163

れずに下さい。

我々の神、――生命の樹の教
へは「旺盛に生きよ」と云ふのです。……ラ
ッフォさん、あなたはその道に我々の聖書をお
開けに入れましたか？」

「いえ……実はわたし自身も殆ど読んだ
ことはありません。」

ラッフォは血を拭きながら、平通にこう返事
をしました。

「ですが、長老は不相変静かに微笑し
て話しつづけました。

「それはおわりますまい。我々の

(SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

神は一日のうちにこの世界を造りました。

金の樹は樹と云うものの、

はるかのびます。（のみならず

ました。

み、

雌の河童の臍を取り、

ました。

我々の眼の神はこの二匹の河童に実（へ）

よ、

交（つる）せよ、旺盛に生きよう

へました。

僕は長老の言葉のうちに

活人のトックを思

退屈の余り、雄の

雄の河童を造り

雌の河童を造り

ること

生

ひおしました。

活人のトックは不幸にも僕の

やうに無神論者です。

僕は河童ではありません。

んうう、

生活教を知らうつたのも無理はあ

りません。

けれども河童の国は河童ばかりゐるとトックは

生（ク）勿論生金の樹を知つてゐたのです。

この教へに従はうつたトックの最後を憐み

ましたう、長老の言葉を遮（さえぎ）るやうにトックは

クのことを話し出しました。

ああ、

あの気の毒な活人ですね。

長老は僕の嘆息を聞き、

深い息を洩らしました。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造社印 166

た。

「トックさんを定めるものは、その運命だけです。（おもあるたをお数へるさるでせう。）

も信仰をおおちにるらるるつたのです。」

「トックは月あるたを羨んでみます。

ラツフ。居るとは年も若ゆい、僕も羨ましい……」

「僕も噛さへちやんとしてみれば或は楽天的だつたのもしれません。」

「トックさんは不幸に

改造社印 167

長老は僕等にのう言はれると、もう一夜深い息を傾らしました。

「僕らもそのもその目は涙ぐんだまま、ぢつと壁を見てみるのです。」

「わたし実は、——

くれはわたしの秘密ですから、どうの誰にも仰有らずに下さい。」

「わたしも実は我々の神を信ずる訣に行かうのです。しかし今度のわたしの祈禱は、

「丁度長老のう言つたなです。

突如一部屋の

戸があいたと思ふと、大きい此の河童をの一

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

改造社印 168

匹、いきなり長老へ飛びつのりました。

「この河童を盗んで行つたな！」

僕はこの河童を抱きかかえようとしたのは勿論です。が、此の河童は吐瀉の囲に床の上へ

長老を投げ倒しました。

「この爺め！又しても酒を飲ませ欺して行つた財布の一杯やろ

十分ばかりたつた後、僕は実に降参と逃げ出さうはかりに大井院の玄関をあとずさりに入りました。

「あれはあの長老も生意気の掟を信じるばかりに

（長老夫婦とあとに残し、）

た。

が、僕は思ひとすると云ふのは勿論大井院はどんより

大井院を振りさけました。

雲つた空にやはり高い塔や円屋根を無数の舷

手のやうに伸ばしてゐます。

この沙漠の空に

見える電気楼の無気味さを云はせたまま。……

……

（SM印　B…1）　10…20

松屋製

改造社印 169

です。

軈く黙つて歩いた後、

ラッフルは僧にこう言ひました。

「あれはあの長老も生意気の掟を信じるばかりに

大井院を振りさけました。

が、僕は思ひとすると云ふのは勿論大井院はどんより

雲つた空にやはり高い塔や円屋根を無数の舷

手のやうに伸ばしてゐます。

この沙漠の空に

見える電気楼の無気味さを云はせたまま。……

……

（SM印　B…1）　10…20

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

日暮 130 寓

十五

それから彼是一周間の後、僕はふと医者の

ナヤツクに会うしい云を聞きました。

と云ふ

のはあのトツクの家に小童のあるとふ云ふ云

のです。

その時にはもう此の河童は外へ

行つてしまひ、僕等の友だちの家には

寓居の主人の

ナヤツクの話によれば、

そのスタヂオに裏つてみました。

スタヂオではトツクの泡いつの間にか

脚と甲羅の後ろに映つてみるとと云ふことです。

も先生は物質主義者ですから、

ナヤツクを信じてはみません。

現にその話をしたみなどを信じてはみません。

にも黒点のある微笑を浮べるのです。

はり霊魂とかもの物質的な在と見えます。

れるとと註釈めいたことをつけ加へてみまし

た。

僕も此童を信じるいてとは

もちろん僕等の友だちの

ナヤツクには

しみを感じてみましたのです。

ら、早速本屋の店へ

駈けつけ、

クの此童の寓居のまわりを

る新聞や雑誌を買つ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

て来ました。

この時程それ等の事を見ると、どのトツクらしい河童の一匹、老若男女のスケツチの出来る人事記事――殊にトツクの出来る人事記事――はないのです。

尤さに大暑を掲げることにしませう。

僕自身の加へた註釈などは可也迂闊にその報告を訳して置きました

詩人トツクの出来に関する報告。（心霊

学協会雑誌第八十二百十七十四号所載）

わが心霊協会は先般自殺したる詩人トツク

君の旧居にしてある現在住は××寫真師のスタヂオオの一室に参集せり。

オろろ口口街第二百五十一号に臨時調査会を開催せり。

列席せる会員は下の如し。（氏名を略す。）

（心霊協会雑誌第八十二号所載）

今回の会員は（氏名の最も信頼すべき者十七名の会員は）

九月十七日午後三時

ホツプ丈人を同伴し、該スタヂオの一室に参集せり。

ホ

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

改造ヨ印 174

ワの夫人は該ステヂオに入るや、
室気を感じ、全身に痙攣を催しつつ、
ること数回に及べり。
夫人の話るところ所女にくれ
ば、
とは汚人トツク居の強迫
なる結果、
その心霊的交通も亦ニコチンを含
有するためなりと云ふ。
我等会員は(自)ホツプ夫人と共に囲卓を繞りて
(黙坐)
(霊)
(たり)
(掌倒)
(夢遊状態)
に陥り、
且汚人トツク居の
は十分二十五秒の後、極めて急劇に
(霊)
の霊の憑依する所

改造ヨ印 175

とされり。
我等会員は年歯順に従ひ、夫人に
憑依せるトツク居の心霊と左の如き問答を開
始したり。

問　居は何故に逃霊になつるか?

答　死後の名声を知らんがためなり。

問　居(君)死後は霊は死後も尚名声
を欲するや?

答　少くとも予は欲せざるも能はず。

予の邸宅した日本の
汚人の如きは死後

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

問　居はその行人の姓名を知れりや？

答　彼の名はにも云へたり。

作れる十七字の一章を言ひ悩打（評は不幸）

問　その行は如何

答　古池や蛙飛びこむ水の音

問　居はその詩を佳作（ありと）やす？

答　予は必しも悪作（ずと）もせず。唯蛙（ママ）を河童（ママ）と改めざるべし。

問　河童（ママ）にも河童を求（もと）

とせん乎、（更に佳作（ママ）雅（ママ）離たるべし。）

問　然らばその理由は如何？

答　我等河童（ママ）は蛙（ママ）も如何（ママ）も理由は如何？

ものと頑切（ママ）れば（ママ）り。

会長ペック氏はこの（ママ）に当り、我等十七名の（ママ）会員にこは人（ママ）霊（ママ）協会の（ママ）暗室兼（ママ）調査（ママ）会にして合評会にあらざるを注意したり。

問　居等小霊（ママ）の如何（ママ）に生活（ママ）すべきやを？

答　諸（ママ）居等（ママ）は（ママ）霊（ママ）術（ママ）者（ママ）の生活（ママ）に（ママ）如何（ママ）？

問　然らば居自身の自殺せしを後悔すやを？

答　然し後悔せず。予は心霊的生活に僧

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用

問　自活（村）ろは容易そりや否や？

トツク居の心霊はこの問に答ろに吏に問を以てしたり。

てはトツク居を知れろものに

は改頭ろ自をろ應酬ろべし。

答　自殺すろは容易ろりや否や？

問　居（諸居）苦霊の生命は永遠なりや？

答　我等の霊（生）命に関しては諸説紛々として

信解すべのらず。幸ひに我等の問にも基督教、

佛教、モハメツド教、拜火教、老（諸）子儒教、宗あろて

とを忘ろろ勿れ。

問　自居自身の信ずろ所は如何？

答　予は常に隠義（玄義）者ろり。

問　己れとも居は少くとも心霊の在在を疑はざろべし？

答　予（諸）居の（者）に（諸）居の如く確信すず。

問　居の交友の多少は如何？

答　古今東西に亘り、無（三百）慮人を下らざろべし。

問　居（の交友は）自殺者のみなりや？

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98
ガラス使用

改造社印

答。

少しも乱りとせず。

ン云ユの如きは予が毘夜の一人なり。唯予は自我を自我せざりし厭世主義者、――シヨオペンハウエルの輩とは交際せず。

問

シヨオペンハウエルのは健在なりや？

答

彼に目下霊的厭世主義を講じ、自活する可否を論じつつあり。

疲ろりしを知り、敬ろ安堵せるものの如し。

我等会員は相次いでナポレオン、ふしる、ドストエフスキイ、ダンテ、ウイン、クレオパトラ、

改造社印

私心、

ダンテ、デモステネス、

利ちの人霊の消息を質問したり。

ツク居は不幸にも詳細に答ろることとを倣さず。

友ってトツク居自身に関すら種々の質ゴシップを質問したり。

問

予の死後の名声如何？

答

辟小ろ人の一人と言へり。

問

彼に予が法集を賜らざりしに怨恨を含めら一人ろべし。

予の全集は出版せらしや？

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

答　居の全集は出版せられたれども、
只だ限ざるが如し。

問　予の全集は三百年の後、
即ち著作権の失はれたる後、
万人の瞩目する所となるべし。

答　彼女は貴族の夫人と
書肆ラックの
未だ不幸にも
義眼なるを知らざる
君の夫人となれり。

問　彼女はラックの
予が
まは如何？

答　固之孤児院にありと聞けり。

問　予が家は如何？

答　某寡婦のスタディオとなれり。

問　予の机は如何にせられしや？

答　如何なれるかを知るものなし。

問　予は予の机の抽斗に
予の秘蔵せる一束の手紙を
焼かれざるやを？

答　それは幸ひにも多忙なる
為に読まずに済めり。

問　予の全集は三百年の後、即ち著作権の失はれたる後、万人の瞩目する所となるべし。

答　彼女は貴族の夫人と書肆ラックの義眼なるを知らざる君の夫人となれり。

問　彼女はラックの妻なまは如何？

答　固之孤児院にありと聞けり。

問　予が家は如何？

答　某寡婦のスタディオとなれり。

問　予の机は如何にせられしや？

答　如何なれるかを知るものなし。

問　予は予の机の抽斗に予の秘蔵せる一束の手紙を焼かれざるやを？

答　それは幸ひにも多忙なる為に読まずに済めり。

問　始したり。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

る 清居。

大ツク夫人は最後の言葉と共に再び急劇に
覚醒したり。
我等十七名の会員はその間参の
眞ありしことを上天の神に誓って保證でんと
す。（尚又我等の通信教授する
ホツク夫人にみす
る親画は皆て夫人が女優たりし時の日当に終
ひて更生したり。）

十六

僕はこう書き記事を読んだ後、だんだんその国
にみることも夏期になつて来ます。たら、と
うの我々人間の国へ帰ることにしたいと思ひ
ます。しかしいくら探してもいても、僕の
落ちた穴は見つかりません。そのうちにあの
バツクと云う漁師の通訳で童の話には何でもその
国の街はづれに或年をとつた河童が一匹、本
を読んだり、笛を吹いたり、静かに暮らし
ておると云うことです。僕はこの河童に深ね

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

芭蕉よ印 186

童子が手を挙げて見れば、

もわうりはしるいかと思ひますたのら、早速街はづれへあうて行きました。

へ行って見ると、如何にも小さい家の中に年をとった河童どころの、頭の皿の固まるうたではないかと思ひました。

名前を聞いて見ると、

やっと十二三の河童ですのが一匹悠々と笛を吹いてゐました。僕は最初論問違つた家へはひつたのです。

た年よりの河童に違ひないのです。

やはりバッグの教へてくれ

芭蕉よ印 187

「しのしあるたはる僕のやうですが……」

「お爺さんはまだ知らないのの？」わたしはどう云ふ運命の、好奇心の腕を出たなにはよ白髪頭をしてみたのだよ。

それのらだんだん年の若くなり、今ではこんなる僕になったのだけれども年を基準すれば、生まれる前を知れない。」

僕は狭い部屋の中を見まはしました。そして六十年としても、彼是百十五六にはなるのも

には僕の気のせいか、質素な椅子やテエブル

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98　　ガラス使用

改選よ印 188

の間に何か清らかな幸福が漂ってゐるやうに見えるのです。

「あなたは誰方(どなた)もほうの暮らしてゐるやうですね？」

さあ、それはさうとも知れない。わたしは若いものにあつてみる。従つて筆をとつた勿論は若いものの生涯は仕合せではない。：兎に角わたしの生涯は仕合せではない。：兎に角わたしの

松屋製

改選よ印 187

ひるまうと思つた。

「成程それでは安らうのではない。」

「や、まだそれだけではない。」

わたしは仕もまだ生きてゐたのだよ。しかし一生食ふに困らぬ位の財産をおつてみたのだ。しかし一番仕合せだつたのはやはり生まれて来た時に年よりだつたと思つてゐる。」

僕は暫くこの河童と自殺した友だちの話だの毎日医者に見てもらつてゐるトックの話だをしてゐました。

松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印 190

余り僕の話などに興味のないやうな顔をしてゐましたが、

「ではあなたはほんたうの河童のやうに格別生きてゐるといふ感覚をおつてはゐないのですね？」

「？」

「わたしもほかの河童のやうにこの国へ生まれて来ることを見ながら、静かに一瞬間に死ねられてゆく胎内を離れたのだよ。」

「年とつた河童は僕のうつる事をしました。

改造社印 191

「しかし僕はかうした拍子にこの国へ転げ落ちてしまつたのです。どうか僕にこの国から出て行かれる路を教へて下さい。」

「出て行かれる路は一つしかないよ。」

「と云ふのは？」

「それはお前さんのここへ来た路だ。」

僕はその答を聞いたなにも云ふ事の出来ないのです。

「その路は生憎見つからないのです。」

だまりました。

年とつた河童は水々しい目にじつと僕の顔

松屋製 (SM印 B…1) 10…20

松屋製 (SM印 B…1) 10…20

国立国会図書館 タイトル『河童』 請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造よ印 192

を見つめました。

それから部屋の隅へ歩み寄ると、天井のうえに下つてゐた一本の綱を引きさげました。天窓の丸い天空の外には松や檜が枝を張つた何うに大空が青あをと晴れ渡つてゐます。

やゝ大きい鍵に似た檜ケ岳の峯も聳えてゐます。

僕は飛行機を見たい一心で、天井のうやつと体を起し、上つて行くのが好い。」

さあ、あすこのうち出して貰ひます。」

あすこまで僕の綱を思つてみたのです。

綱を指さしました。

今までさつきの

年とつた河童はこう言ひながら、

改造よ印 193

ではあすこのうち出して貰ひます。」

「唯わたしは前以て言ふのが悪かつた。出て行つて後悔しないやうに。」

「大丈夫です。後悔などはしません。」

僕はこう言ひ捨てると、後ろ向きに綱梯子を攀ぢ登つてゐました。

年とつた河童の頭の皿を通つた下に眺めるのも。

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

十七

僕は河童の国のら帰って来た後、

ら人間の皮膚の匂に閉口しました。

に比べれば、

河童は実に清潔なものです。

みうず我ら人間の形は河童ばかり見てみた。

僕には如何にも気味悪いものに見えます。

た。

それは或はあそたにはおわかりにならうとも、

もとの鼻すと云ふものは妙に恐しい気をもさせるものです。

僕は勿論出来るだけ、誰にも

うの目や口は兄も角

僕は河童の国のら帰って来た後、

僕は勿論出来るだけ、誰にも

うの目や口は兄も角

いつか次第に慣れ出したと見え、

たつうちにどこへでも出ろやうになりました。

唯それでも困ったことには何か話をしてみた。

うちにうつかり河童の国の言葉を口に出し

てしまふことです。

「君はあしたは家にみろのねア。」

「Qua」

「何だって？」

「いや、みろと云ふものだよ。」

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改造よ印 196

大体のうゝ云ゝ訶ゐだったものです。

しのし河童の国のう帰つて来た後、丁度一年ほどたつた仕、僕は或事業家の為に……

S博士は彼のう言つた仕、その話はおよしろさゝと注意をした。何でもS博士の話は

よれば、彼はとの話をするる夜に看護人の手に

斗了へるゝ位、乱暴にるるとの云ゝことであ

る。

しのし或事業の

でばその話はやめま世うう。

しのし或事業の

失敗した後ゐに河童の国へ行きたいとのでばありま

せん。帰りたゝと思ひ出したのです。

河童の国は当ゝの僕には故郷のやうに感ぜられまし

た而り。

僕はそつと家を脱け出し、中央線の汽車へ

乗うとしました。

そとを生憎巡査につうまり、

とうとうその病院へ入れられた訳です。

僕はとの病院へはひつた当座も河童の国

のことを考へつゞけました。

一医者のチヤツク

訪な者のマツグ

ばどうしてみるでせう?

改造よ印 197

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造社印刷

不知裏七色の色硝子のランタアンの下に行ると考へてみるのも知れません。

殊に僕の親友だつた、嘴の腐つた学生のランプは、——耳けるやうに暑つた午後です。

僕と仲間とはそこに建物に取つてみた僕は思はず声を挙げようとしました。

それはいつの間にはひつて来たか、バッグと云ふ漁師の一寸ばかり一匹、僕の前に行儀よく——

ぢつ、行儀も窓を下げてみたのうです。

僕は心をとり直した後、——

——注意したか笑つたかも

改造社印刷

の国の言葉を使ふことに感動してみたことは確です。

「おい、バッグ、どうして来た？」

「へい、お見舞ひに上つたのです。」

「病気だとか云ふことです。ぢうしてそんなことを知つてゐるか？」

「ラヂオのニュースで知つたのです。」

「バッグは得意さうに笑つてみます。」

「それにしてもよく来られたわ？」

「行く、造作はありません。」

「海や堀割りは河童

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98

ガラス使用

改造ノ印

には往来も同様ですら。」

僕は河童も蛙のやうに水陸両棲の動物だつたことに今更のやうに気づきました。

「しかしこの辺には川はありませんね。」

「ええ、こちらへ上つたのは水道の鉄管を抜けて来たのです。」

それらから僕は二三日毎にいろいろの河童の訪問を受けました。僕の病は次第にS博士によれば、

「消火栓をあけて？」

「檜那はお忘れるすつたのですか？」

「河童にも

「あけて……」

檜那「他のみろと云うことをを。」

改造ノ印
201

それらから僕は二三日毎にいろいろの河童の訪問を受けました。

僕の病は次第にS博士によれば、早発性痴呆と云うことです。

しかしあの医者にも失礼に当るかもしれません。僕は早発性痴呆患者はS博士と始め、あるだのチャックは甚だあるたに

ん。

殊に二三四一しよに来るのは祝、

れも月のある祝です。

僕はゆうべも月めりの中に硝子戸の外の社の社長のゲエルや坊ちゃんの音楽家のクラバックのヴァイオリンを一曲弾いて貰ひました。

そしたら、何うのつてみるでせう？

あれもゆうべクラバックで土産に持つて来てくれたものです。……

（僕は後ろを振り返つて見た。

の、勿論机の

……

ツクの全集の一冊です。

（彼は古い電話帳をひろげ、のう云ふうちをお

ほ声に読みはじめた。

上にはれ花束も何ものつてみるのつてゐた。）

それのらての本も投げ者のバックのわざわざおつて来てくれたものです。

ちよつと最初の詩を読んで聴かせさい。

いや、あるさ、よし、

童の国の言葉を御存知にるろ袋はありますせん。

代りに読んで見ませう。

これは（題名）

出版にるつた（撰ぶ）

夢見るころの

(SM印 B…1) 10…20
松屋製

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

改選より印

佛陀はとうに眠ってゐる。
路ばたに葬られ
枯れた無花果と一しよに
草莽もう
もう死んだらしい。

しのし我々は休まろう
たとひ芝居の背景の
その又背景も裏を見れば、
縫ぎはぎだら
けのカンヴァスばりだ。

松屋製
(SM印　B…1)　10…20

二・十一

ひに行ってやりたいのです
ずれ。
……
……
(昭和二・)

僕はS博士さへ承知してくれれば、
す。
見舞

は河童の国の精神病院にゐると云うてゐると
ほんたうに発狂してしまひました。
何でも今
えてゐるぜ。
あの河童は戦を失った後、
たは僕の友だちだった試判官のペンクロを
りません。
河童たちはのみくれてゐましたと云ふ
あ、
(ほれぼれ)
僕はこの話の
僕はこのうに厭世的ではあ

松屋製
(SM印　B…1)　10…20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用

河童系統縁起記

昭和二年七月十五日の朝芥川龍之介よりスグコイの電報が届けられた。田端の澄江堂の二階にて雑談する前、是を永見きに進呈しやうと差出されたのが、この河童系統であった。その日二人は夜おそく迄散歩して或一軒の甘い物屋に入った。その十日目が、彼きのパライソ昇天であった。

歳月は二十数年が過ぎ、昨年の祥月命日、私は君を偲び、とある店にて二椀のおしるこを注文し、一ツは君の霊にとさゝげた。その時たはむれの作歌を胸に浮めた。

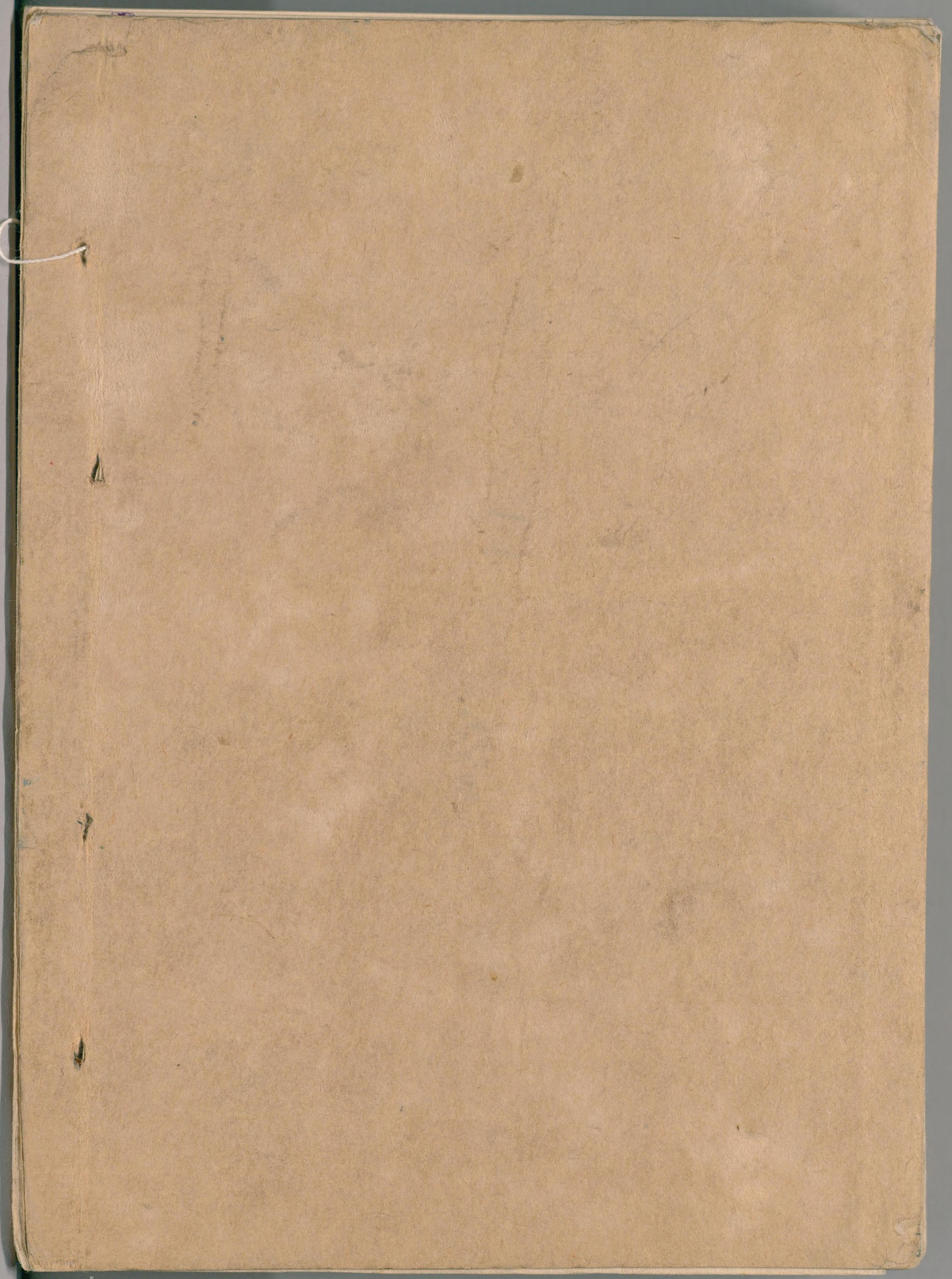
ぱらいそに　河童聖人　おはすかや
椀に汁粉盛り　たてまつりてむ

昭和廿三年春の花さく日

懐を記

原稿用紙
10×20

国立国会図書館　タイトル『河童』　請求記号 貴7-98
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『河童』　請求記号　貴7-98

ガラス使用